滿洲日報

わが五個條の要求に不誠意な支那の回答
移動中止、撤兵は迚も不可能

【天津特電二十七日發】今朝香椎軍司令官の五個條の要求、即ち(一)即時敵對行爲中止(二)支那軍の二十支里外撤退(三)武裝保安隊を運河の線江北に撤退(四)河北省内の軍移動中止(五)排日侮日中止に對し王樹常は二十七日午後四時これが回答を送附して來たが内容は大體次の如く不誠意極まるものである

一に對しては日本側に對して敵對行爲をしてゐず專ら便衣隊と交戰してゐる
二に就いては既に着々二十支里外撤退を實行してゐる此の旨は貴總領事にも通知せり
三に就ては餘りに北に避けると治安維持上不可能である何か辦法あれば協議の上實行する
四に就いては河北省内には余の軍隊のみでないから自分の力では不可能である
五に就いては最善の努力を行つてゐる

香椎軍司令官聲明

【天津特電二十七日發】王樹常の不誠意なる回答に對し香椎軍司令官は直に左の如き聲明を發表した

去る十一月十五日王樹常が支那側の敵對行爲に對し陳謝の意を表し未だ二旬ならずして再び今回の如き衝突事件を惹起せり 我が軍は屢々聲明せる如く支那側の挑戰なき限り絶對に敵對動作に出でざるべきは勿論にして本二十七日通告を發せるは眞に日支兩軍の不祥事を防止せんとするに外ならず、しかるに支那側の回答は些かの誠意もなしこれに對する支那側の責任は實に重大なるものと認む

我義勇隊解散を知り支那軍戰鬪行爲
天津事變で我軍部聲明

【東京二十七日發】天津事變に關する陸軍の聲明左の如し

十一月十五日の協定に依り我軍は漸次租界の警備を撤回し又二十六日午後には義勇軍も解散した、一方學良は蔣介石の使嗾を受け北支那一帶並に錦州附近にて戰備を整へつゝあつた、然るに二十六日午後八時突如天津舊オーストリア租界、次で日本租界に接近せる支那町の電燈一齊に消えたと見るや二十分經たずに海光寺兵營西方地區から銃聲起り間もなく東南城隅方面より射撃し我警備線租界内に彈丸飛來し 支那側は我射撃中止の要請を聞かばこそ益々射撃を加へたるため我軍は自衞權のため決然起つて各部署についた、この日張學銘は北平から歸來し我義勇隊解散のことを知り豫ての計畫に基き戰鬪を開始せしものと想像さる

對日作戰計畫を樹て用意成り次第に行動
學良から蔣介石に通告

張學良は蔣介石にあて「次の如き對日作戰計畫を樹てその用意なり次第實行に着手せんとす」と通告した

一、錦州北方部隊は打虎山に進出せしめ錦州南方軍は錦州に集結せしむ
二、遼西の土匪中錦州政府に好意あるものを更に多く改編し別働隊を増加す
三、北平より最少限度四十旅を悉く變裝せしめ特殊部隊を編成し遼西に向はしむ（これ外國武官等の眼を誤魔化さん爲なり）
四、熱河軍より騎、砲各一個旅を朝陽に集結せしむ
五、全軍に對し作戰行動直前給料を支拂ふこと【奉天電話】

支那軍續々天津に集結

【天津二十七日發】過日天津の西北二十五支里の地點に退いた奉軍第二十九旅は今朝來徒歩で天津に到着し午後二時半全部天津に集結を終つた、一方津浦線で蔣介石の直系便衣隊二百名天津に到着した

對日宣戰要請
東北軍將領が張學良に

【北平特電二十七日發】于學忠以下東北軍首腦部將領十五名は昨日連名で張學良に對し即時對日宣戰を要請し進んで日軍と決戰を交へたき意思を述べ許可を求めた、之に對し學良は高紀毅を南京に派し蔣介石に意見を聞き合せ中だからその返事あるまで待てと答へた

矢野參事官學良に抗議

【北平二十七日發】矢野參事官は張學良を訪ひ天津日支衝突事件に關し支那正規軍の敵對行動停止二十支里外撤退及北平の在留邦人の保護につき嚴重注意を喚起すると共に學良の對日態度の明示を求めた

各國駐屯軍自國租界を防衛

【天津二十七日發】今曉三時半各國軍司令官は我司令部に參集協議をなした結果各國軍は獨自の立場より租界防衛の任務に當ることゝなつた

我陣地と日本租界愈危險に瀕す
今曉攻勢に轉ぜん

【天津特電廿七日發】その後の戰況は王樹常が絶對に敵對行爲を取らぬとの言明をなしたにもかゝはらず支那軍の行動は寸毫もやまず午後八時からは南開女子學校方面より我が軍の左地區及び海光寺兵營に向ひ機關銃、迫撃砲で猛射を續け、また左地區の攻撃擁護の目的で我軍の中部地區の陣地に對し盛んに砲撃を續けてゐる、なほ支那軍の射撃は漸次巧妙となり着彈は益々確實となり我が軍の陣地はいよいよ危險に瀕したので我が駐屯軍幹部もいよいよ二十八日明け方を期し南開女學校同中學校及び競馬場方面に集結せる支那軍に向け積極的攻撃に轉ずることゝなつた模様である

我陸戰隊昨夜天津着

【天津二十七日發】岩橋大尉の指揮する第二遣外艦隊「刈萱」「芙蓉」の陸戰隊〇〇〇名は多數の居留民に迎へられ午後七時四十分某所に到着、點呼を行ひつゝある際支那側の砲彈殷々として轟き渡り陸戰隊をして頓に緊張せしめたが砲聲は數分にして止んだ、右陸戰隊は香椎軍司令官の命を受け天津居留民の保護に任ずるものである

長安、河南兩船に避難民收容準備

【天津二十七日發】在泊中の長安丸と河南丸は貨物積込みを制限し我避難民を乘船さすべく準備を開始した、在住邦人婦女子引揚につき桑島總領事は外務省に對し正式命令を請訓した

あさがほ出動

旅順に待機中の第十六驅逐隊アサガホは廿七日午前六時塘沽に向け出發した

大沽も危險
邦人百餘名避難

【天津二十七日發】大沽の空氣險惡化し在留民百餘名は山海關よりの避難邦人と共に陸軍運輸部に避難せり

軍艦「八雲」某地へ急航

【佐世保二十七日發】佐世保に待機中なりし軍艦八雲は午後六時出動命令を受け諸般の準備を整へ午後十一時廿佐世保發〇〇へ急行した

日本租界に公式戒嚴令

【天津二十七日發】日本租界には一齊に公式戒嚴令は明治二十九年租界創設以來初めてゞある

死の街と天津市化す

【天津二十七日發】英佛租界の一部を除き今朝來天津全市の交通商取引等は一切停止され全市は死の町と化してゐる

増兵の報至り天津同胞勇躍

【天津二十七日發】航空母艦加賀派遣に決し、又政府は増兵斷行するに方針決定したとの報至るや同胞は歡喜勇躍我軍は敵兵の[illegible]反撃中である

天津依然不安

【天津二十七日發】不安去らず最後の手段として婦女子を他租界に移すべく講究中である

香椎軍司令官第一線を巡遷

【天津二十七日發】本日午後二時香椎軍司令官は愛田高級副官を帶同し交戰中の第一線を巡視し其後軍病院で負傷兵を見舞つた

天津、奉天間電信、電話杜絶

【奉天二十七日發】錦州軍は我軍に對し總攻撃的態度を採ると共に我が軍の逆襲を防禦するため北寧線の鐵道を破壞し天津、奉天間鐵道電信、電話は全部不通となつた

日本軍今や斷乎たる決意に出づべき機會
支那軍速に錦州から撤退せよ
在奉外人の時局觀測

在奉外人一般の時局問題に對する觀測を綜合するに滿洲事變軍事行動に關しては既に終局を告げたる今日、錦州政府は平穩なる某方面に對し別働隊を使嗾して治安攪亂等各種の敵對行爲をなすにおいてはこれを撃つの如きは論理的で速かに之を撃滅して禍根を一掃し爾後の建設と外交々渉を刷新せしむることが人道上緊急にして戰時の期間を短縮ならしめ速かに平和解決を進むことが極めて必要となす目下の問題としては支那軍が速かに錦州より撤退することにより戰鬪の意志なきことを實證するか、しからざれば日本が速かにこの邪軍を撃滅するかの二途あるのみにして日本軍は今や斷乎たる決意に出づべき機會に際會してゐる

支那裝甲列車の猛撃にわが軍やむなく應戰
板倉大尉ほか二名名譽の戰死
負傷者數名を出す

廿七日午前九時三十分頃〇〇〇附近を警戒中の我裝甲列車は前方より驀進して來る支那裝甲列車を發見したので停車せるところ突如、支那裝甲列車より猛射を浴せられたので已むなく應戰しこれを撃退したが、この戰に於て奉天守備隊第〇大隊の板倉大尉は戰死した、その他我軍の戰死者二名、負傷者數名を出した【奉天電話】

天津事變外人記者團に異常な衝動

廿七日午後五時外人記者團に對して滿鐵囑託渡少佐が軍部の正式發表ではなく單に新聞に掲載されたニュースとして天津の事變並びに伊太利租界支那軍攻撃の記事を讀み上げたところ外人記者團一同に對し非常なショックを與へた殊に天津伊太利總領事は目下滯奉中である【奉天電話】

支那裝甲列車天津に到着

【天津二十七日發】大砲四門を搭載した支那軍裝甲列車は今曉天津驛に到着した、支那軍益々積極的敵對行爲に出でんとしてゐる

流言蜚語盛ん

【天津特電二十七日發】去る二十四日以來天津の東部一般學生勞働者等は盛に對日宣戰を絶叫し、支那軍は二十五日を期し日本租界を砲撃し全部燒き拂ふと稱し或は日支境界附近には近く砲彈の雨を降らすべし、一般支那住民は出來るだけこの際避難せよと公安局の名にて觸れ歩き流言百出してゐる

租界攻撃は學良の命令

【天津二十七日發】今次の事件は昨夕歸津した張學銘が張學良より使命を受けて行つた事態と確實らしく、北倉の第三十旅砲兵團の一部が事前に天津に乘込んでゐるので我軍として此上は駐屯軍僅少なりと雖も斷乎として暴戾なる支那軍を徹底的に膺懲するに決し酒井步兵隊長は病氣を推して各軍の指揮をとつてゐる、此上は先づ駐屯兵營前方の一帶を占據し續いて敵の最有力陣地たる南開附近から支那競馬場一帶の支那軍を血祭にあげるものと觀られてゐる

日本軍攪亂のため潛入したと自白
匪賊に化けた支那兵

既報大石橋第三大隊第一中隊が楊家屯に於て捕虜とせる匪賊一名は二十七日大石橋大隊本部に押送取調べたが、彼は平服の下に正規兵軍服を着てをり安東生れ王海順と云ひ第十二旅二十九團に屬する兵にして錦州軍の内命を受け日本軍攪亂の目的を以て潛入した旨自白した【大石橋電話】

黑龍江省の回復電命

馬占山は廿五日張學良、萬福麟、蔣介石の三氏に對し好機を待つて黑龍江省の回復を企圖する旨報告したが、これに對し學良氏は了解を與へ萬等と切實に連絡し一致の行動を執り好機を待つて黑龍江省を回復せよと電命した【奉天電話】

チチハルの皇軍引揚げを開始す

【チチハル特電二十七日發】第二師團は豫定の如く旅團長の率ゐる混成步兵第一聯隊を當地に殘留せしめ他の部隊は本日より逐次引揚げを開始した師司令部は今明日中に引揚げる模樣である

馬占山軍費の供給電請

馬占山は二十七日張學良に對し左の如く打電した
今回昂々溪の戰鬪に於て將校以下死傷甚だ多く、戰鬪後離散せるものを加へ其の大半を失へり武器、軍馬の損害甚し、よつてこれが回復のため軍費の供給を仰ぎたし（奉天電話）

英順黑龍江省長官代理

【ハルビン二十七日發】新任黑龍江省政務廳長英順氏は新任全省警務處長、教育廳長、實業廳長、公安局長を同伴、軍警五百五十名を率ゐて二十六日午後十一時發裝甲列車でチチハルに向つた、英氏は張景惠氏の黑龍江省長官就任まで長官の職を代理することになつてゐる

學良軍五ケ師錦州を固守

【北平二十六日發】張學良は錦州政權擁護のためと稱し二十四日來熱河軍の出動を命じたが、湯玉麟は果して此命を遵奉するや否や疑問であるため關内十萬の手兵は自己を護るため移動せしめず約五ケ師の兵力を以て錦州を固守させ場合により遼寧省政府は綏中に移す方針である

錦州方面の狀況

錦州方面の狀況左の如し
一、二十四日北平外國武官の一行錦州の視察に赴いたが學良は軍隊一般に對し日本軍が防禦するのみにて、日本軍を攻撃せよとの命令を受けたることなしと回答するやう嚴達した、又錦州に於て貼附された對日宣戰の傳單等は學良の命により二十四日の朝まで一枚殘さずとりさられた
二、二十四日兵器を滿載せる列車は同地に向ひ輸送せられた【奉天電話】

中立地帶設定問題で佛駐日大使が申入れ
きのふ幣原外相を訪ひ

【東京二十七日發】錦州中立地帶設定問題に關しフランス大使マルテル氏は二十六日午後幣原外相を訪ひ左の申入れをなした

日本は錦州における支那兵の關内撤退を希望する趣きなるが、支那政府に於ても滿洲問題の最終的解決に至るまでの臨時措置としてのみ次の條件で關内撤兵をなす用意あり
一、日本は英米に對し右撤兵區域内に日本軍が侵入せざることの保障を與ふること
二、右撤退區域内に於ては支那政府の行政權（警察權を含む）の持續せざるべきこと

を述べ日本政府の意向を問ふた、依つて幣原外相は二十七日の閣議に於て協議の結果支那側の中立地帶設定の希望に對しては
一、中立地帶の設定及びその細目取極めは兩國直接交渉に依り現地の實状に基き協定さるべきこと
二、中立地帶の設定に關しては日支兩國がそれぞれ獨自完全なる責任を負ひその間に第三國の干與介在を絶對的に排除す
の二點を條件として應諾するに決定、閣議後幣原外相は參内し別項の回答を佛大使になした

支那軍先づ撤退せよ
佛大使に回答文を手交

【東京二十七日發】幣原外相は廿七日午後六時外務省に佛大使の來訪を求め錦州中立地帶設定の提議に對し左の回答文を手交した

錦州地方に於ける支那軍にして錦州および山海關に至るまでの各地支那軍を山海關若くばその以西に完全に撤退しその地方の行政權（警察權を含む）のみを維持するに於ては日本政府も日本軍をして右撤退區域内に立入らざらしむべし但し北支那の日本臣民の生命財産の安固度外せられ、か若くはその地方の日本駐屯軍の安全が脅かさるゝ場合にはこの限りに非ずなほこの細目協定は日支直接たるを要す

紛爭解決と樂觀

【パリ廿七日發】ブリアン議長、セシル卿、スペインのデーマザリアガ氏よりなる聯盟分科委員會は日支代表から提出した本國政府よりの回訓を基礎に紛爭解決議案の起草に着手したが、聯盟方面では廿八日理事會最終の公開會議を開くまでには行かぬかも知れぬが、日本軍の錦州占領等の不測の事態が今後惹起されぬ限りさしもに聯盟を惱ました日支今回の紛爭の解決も事實上達成せられたと樂觀されてゐる

決議案起草完了

【パリ二十七日發】日支問題に關する聯盟理事會決議案起草委員會は起草を完了した、右決議案は直に午後の理事會に提出されるはずである

派遣委員は全船調査が必要

【ロンドン二十六日發】英外相サイモン氏は滿洲派遣委員問題につき語る
イギリスが滿洲の事態に關し最も重大なる關心を拂つてゐることは九國條約に依る滿洲の門戸開放の原則の保持である、今回のパリ理事會は聯盟に取つて重大なる試錬で今や日本は秩序維持の見込み立ち次第撤兵する、なほ支那調査委員は多岐に亘つてゐる日支係爭問題全般に亘り綿密に調査研究を遂げることが必要と信ずる

中立地帶設定に關し我代表に正式提議
芳澤氏直ちに請訓す

【パリ二十六日發】理事會議長ブリアン氏は支那側の要求に基き錦州附近に日支兩軍いづれも立入ることの出來ぬ中立地帶設定を本日芳澤代表に正式に提議し芳澤代表は直に本國政府に請訓した、なほ傳聞するにブリアン議長は支那調査委員會委員長には氏の片腕として信任厚いルジエール氏を任命せんとしてゐると云はる

イタリーは贊成言明

【パリ二十六日發】錦州東方に中立地帶設置に對してはイタリーのみ錦州派兵に贊成する旨二十六日言明した

久保田駐在武官轉任見合せ

目下滯奉中の久保田駐在海軍武官は十二月一日の定期異動に於て大佐に昇進し同時に轉勤の筈であつたが時局に際し滿蒙通として知られてゐる關係上轉勤は暫く見合せ昇進だけすることゝ豫想されてゐる【奉天電話】

錦州方面の支那兵撤退提議に關する文書
芳澤代表よりブ議長に手交

【パリ二十六日發】芳澤代表は二十六日午後ブリアン議長に面會し錦州方面の支那兵撤退提議に關する文書を渡しこれを説明した、該提議は左の六點より成る
一、錦州方面に於ける日支衝突を避けたし目下支那兵二萬錦州附近に集中し居れり
二、鐵道附近秩序攪亂の惧れあり且つ蔣介石氏の言行に注目すべきものがあるが我司令官は秩序維持に努めつゝあり
三、馬賊等が鐵道地域襲撃するを以つてこれを防禦するため我警察行動の際支那兵と衝突を來たさざるやを保せず
四、日本軍は斷然攻勢を取らざる決意なるも今日の情勢が續けば衝突の惧れなしとせず
五、事件解決に近き此の際は非とも衝突を防がねばならぬ
六、故に支那軍が遼河の西方に集中せざる樣理事會において支那側に勸告せん事を希望す

天津記者團増兵決議

【天津二十七日發】我租界はいよいよ危險に瀕しつゝあるので天津日本記者團は本日午後左の決議を首相陸相外相宛に打電することに決した
暴戾な支那軍に包圍猛射され五千の邦人流離顚沛す即時の増兵斷行を除きて危機を救ふの良途ありや、謹みて閣下の高觀を仰ぎ切に御示教を俟つ

首山驛員某方面へ出發

首山驛長福永悦次郎氏を始め驛員機關區員四十名は二十七日驛某方面に向け出發した【遼陽電話】

天津碇泊中の長平丸は無事

天津碇泊中の大連汽船長平丸船長より二十七日午後四時當地本社に達した情報によると
午後三時銃撃なほ止まず日軍應戰中時局益々重大となる見込み社員一同無事

社說

天津日支軍の正面衝突
支那軍の無謀　各國租界警戒

天津の支那軍は二十六日午後八時二十分突如我軍に對して射擊を開始した。我軍應戰して同方面は紛擾の裡にある。支那軍はかねてより我軍に對して敵對の態度を執つて居た。併しながら、同地には日本の居留民も多く、各國の租界もあるから、我軍は事件が擴大するを恐れて隱忍し、支那幹部と協定を重ねて意外の事變を惹起せざる樣に努力して來た。然るに支那軍は約束の如くに防備を撤せざるのみならず、却つて內密に積極的計畫を進めて、日本軍の殲滅を企畫した。而して張學銘は學良と謀議の結果、遂に此暴擧に出でたものである。蓋し日本軍隊には內地から增援隊も來ず、依然手薄の狀態にあるのみならず、長時日の警戒で疲勞して居るのを見すまし、今度こそは實力によつて日本租界を奪取せんと決心し、便衣隊の暴動鎭壓を名として、遂に此の暴擧に出でたものである。

◇

日本軍は兵力寡少で且つ疲勞して居るが、もさより重大な任務を自覺して居る。容易に支那軍に乘ぜられるものではない。直ちに應戰して、却つて支那軍に手痛き損害を加へた。併し我兵力は駐屯軍三ケ中隊、義勇兵五百名に過ぎず。續々各方面から集結して來る支那兵に應戰するに、非常の努力を要する事は勿論である。何しろ五千の居留民を有する事は我軍にとりては重大な負擔である。我租界の一部は支那軍砲火の下に曝さるゝに至つたから、桑島總領事は旭街福島街方面の居留民に避難を通達し、在鄉軍人も非常召集に應じて第一線に立つて防備に努めて居る。今や我官民一體、苦難の裡に軍隊と力を併せて我權益擁護の爲めに寢食の遑なくし奮鬪して居る。いつもながら支那軍の暴戾と無謀とには驚かざるを得ないが、しかも支那中央政府と天津官憲軍隊との關係が、事實上に於て甚だ曖昧である爲めに、日本は支那に對して宣戰するにも躊躇して居る。爲めに、日本軍の不利此上もなく居留民の不安も大ならざるを得ない。固より表面から見て、日本が對支宣戰を布告する理由は十分にあるのだから、支那側にして反省する所がないならば、遂に本式の戰爭たるに至らざるを保し難い。之れかれてより、東洋和平の爲めに吾人の甚だ憂ふる所である。

◇

支那兵は日本軍隊を射擊するのみならず、イタリー租界まで射擊するに至つた。伊軍はもさより應戰したが、血迷つた支那軍は更に如何なる無謀な事を爲さないとも限らない。實は今日に於て、日本軍少數ながら、よく支那軍を抑へて居るからよいが、事態の如何によつては他諸國の租界に侵入しないとは限らない。其外交は元來革命外交を標榜し、かれて排外熱を煽つて居る。軍隊は無秩序で國際義務の何たるかも辨へない。だから命令的攻擊とも、無命令的掠奪とも、わけの分らぬ亂暴がいつ開始されるか分らない。此れが支那軍隊の特色で、甚だ恐るべき所以である。されば各國軍隊も各自の立場から租界の防衞を決議した。吾人は支那官憲軍隊が此際十分なる反省を行ひ、事件を收拾する能はざるまでに擴大しない樣に望まざるを得ない。

黑龍江省の新政權
落付くところに落つく
只張景惠氏に兵力なく多少の危惧

【チ、ハルにて栗栖特派員廿七日發】張景惠氏の態度尚不明の間チ、ハル省城に於ては例により種々の政策が行はれ地方團體の代表者中には張海鵬氏を迎へるべき決議をなしたり、或ひは馬占山を說いて省城に復歸せしめんとした一團もあり、また或る方面では前々省長たりし顧興の擁立運動も行はれたりしたが皆物にならなかつた

馬占山 は廿一日海倫より電報で張景惠氏と數次に亘り意見の交換をした事實あり張景惠氏は馬占山及び張海鵬氏との間に地盤の協定に關しほゞ成案を得たるもの、如く省城の瀨踏みも終つたので英順は愈々張景惠氏の正式代表として五百四十名の護衞兵を臨へ二十六日夜半の臨時列車でハルビン發二十七日午前八時チチハル省城に入り治安維持會その他新政權の確立に關し協議することゝなつた、この黑龍江省の政權確立は東三省統制上最も重大な問題であるが最初から極めて愼重な態度を執り來つた張景惠氏の自重は省民の信頼を博するに充分であり殊に張作相幕下の宿將として

威望も 充分であるから誰でも黑龍江省の新政權を容易に落ちつくべきところに落ちつくことになつたものと觀測される、たゞ張景惠氏は今のところ殆ど兵力を有してゐないので多少の危惧が感ぜられるがそれから自ら別に方法あるべく日本軍は少しも早くチチハル省城から撤退する意嚮を有してをり各部隊は本日までにことごとく撤退を終り明日は重砲大隊も引揚げる筈である

戰爭前 チチハルに在つてゐた林少佐は既にチチハル特務機關として各種の折衝に當ることになつた

大連市の區長會議

大連市の區長會議は廿七日午後二時から市役所市會議場において開催された、出席者は市役所側から小川市長以下各理事者、區長側から區長及び區長代理四十五名、劈頭小川市長の挨拶に次いで各關係理事者から左の如き指示事項ならびに注意事項あり、引續き種々の質擬應答あつて同四時三十分散會した

指示事項

一、區の分合に關し意見あらばその理由を具し區事務處理上支障の有無等……れたし

注意事項

一、通報事項周知方に對する件 一般市民に對し周知せしむべき事項は可成洩れ無く周知……

二、軍隊、傷病軍人其他の當市通過の際は勿論區民多數を以て送迎する樣……

三、街燈管理に關し本市所管に係る街燈にて破損その他……を發見せられ……

四、衞生作業に關し衞生作業に關し遲滯なく社會……期するも尚遺憾の點あらば……監督者又は衞生……

蔣介石氏
學良の處置を決意し北上
天津の我軍攻擊も此間の微妙な關係によらん

【上海二十七日發】蔣介石は內外の事情いよ〱切迫したので過般の寧粵和平會議當時の態度を一變し無條件に廣東派の要求を容れて統一政府を組織する決意をなし南京の四中全會の秘密會議において此旨聲明し孫科、汪精衞兩氏と交涉の結果汪、孫兩氏も大體蔣の提案を承諾し、殊に汪氏は此際統一政府の首班としては蔣を措いて他に無しと蔣を推戴する意思を明かにし茲に蔣、汪、孫三巨頭の間には完全に妥協成立したが、たゞ胡漢民氏のみは飽く迄蔣の下野を强調して廟平妥協を排擊し遂に廿五日上海出帆のエムプレス、オブ、カナダ號で廣東に去つた、しかし蔣は大體廣東派との妥協成立するものとして北上し內外非難の的となつてゐる張學良を處置する決定を爲したのである、こゝにおいて張は坐して蔣に處分されて完全に勢力を失ふか若くは日本軍と開戰して死中活を求むるかの二途のうち孰かを選ばなければならぬ破目に陷つたのであつて、天津において突如わが軍を攻擊したのもこの間のデリケートな關係に因るものと觀られてゐる

日本人を敵視した張學良の侮日政策
四、邦人へ土地家屋租借禁止

遼寧省政府が邦人の土地家屋租借を不法に禁止し犯すものを處罰し既に契約の成立せるものまで回收し、內鮮人の生業を壓迫せることはあまりに世上周知のことであるが、最近に至り政府當局の邦人排斥は益々露骨となり奧地において水田を經營する鮮人は相ついで追放されるといふ悲慘な狀態であつた

◇

然も東北官憲は徹底的邦人驅逐を斷行すべく各縣官憲を督勵し本年一月以來この種訓令は十四件に及んでゐる、即ち本年一月には省政府より日本人に家屋貸與禁止訓令を出し旣に契約あるものに對しては期限滿了と共に回收すべしとした

又一月十九日附で外人に對し地劵抵當禁止令を出し、同時に民政廳より日支人間土地商租取消方通令を發して一月一日以來の契約は一切取消し更に三月二日附省政府より外國人（主に鮮人を指す）に土地貸與禁止に關する通令を發し鮮人の小作權を取り上げたのである

◇

かくして官憲の鮮人壓迫は益々露骨となり、鮮人は多年經營せる水田を捨て、續々追放されたが、それでも尙足らずとし三月卅一日附で私契約禁止の命令を發し

一、官憲の許可なくして內鮮人と土地家屋の賣買貸借をなすべからず

二、民間において內鮮人と農工商上の契約を爲すを得ず

三、內鮮人と中國人との合資に依る營業を爲すを得ず

四、右各項に違反するものは嚴重處分を爲す

とし恰も敵國民と同樣の取扱ひをしたのである、茲において遂に萬寶山事件を惹起するまでに至つた更に四月二十日附國土盜賣懲罰令……

滿鐵へ融資
一千六百萬圓
興銀が一手引受け

【東京二十七日發】滿鐵に對するシンジケート銀行團有志は其後大阪側銀行の態度も決したのでシンジケート加盟銀行たる興銀、正金、鮮銀、三井、安田、第一、川崎、住友、山口、鴻池、三十四、第百の十二銀行代表は二十七日午後三時丸の內興業銀行の會合協議の結果、融資總額は滿鐵要求の二千萬圓に對し一千六百萬圓は興銀が一手引受ける事に決定したが融資條件は左の如し

一、手形發行期　十二月中

一、利率　六十日拂の手形の切換へ毎に決定、第一回の利率は手形發行期當時の市場利率に依る

一、融資期間　滿鐵社債發行の出來るまで

一、擔保　無し

官銀號の在庫金提供を嚴禁
張學良の强制引出し頻繁で
袁金鎧氏の名で通電

東三省官銀號にては今回の事變以來各地支店の在庫金が張學良の命により强制的に引出され東三省擾亂の用に供さるゝもの多く、錦州方面へ雲泥と共に地方縣政府へ出の命令いよ〱頻繁となつて來たので二十七日奉天代行政府では袁金鎧氏の名を以て省內五十八縣政府代表に對し嚴命を發し、若し錦州政府又はその手先の者に交附せる者あらば金額の多少に關せず嚴罰に處する旨通電した【奉天電話】

十月までの對外貿易

【東京二十七日發】大藏省調査＝朝鮮、臺灣、南洋を含む全國分對外貿易十月分は一千六百五十九萬三千圓の出超で、前年同期より五百八十八萬二千圓の出超減、一月以降累計は九千九百八十八萬一千圓の入超で前年入超の約半減にない一月以降十月までの累計（單位千圓）

輸出	一、〇一四、七二
輸入	一、一一四、六〇
入超	九九、八八

で前年に比し九千三百十三萬……

津田第二遣外艦隊司令官 滿鐵正副總裁を訪ふ

二十六日秦皇島より旅順に入た第二遣外艦隊旗艦「球磨」乘の津田司令官は二十七日午前時龍岡參謀を帶同自動車で來滿鐵本社に內田、江口正副總訪問に挨拶を述べ約三十分にて懇談するところがあつたが津の形勢急變し遂に日支開戰に至つた今日北支那警備の……

二つの美談

满洲評論（週刊）

第十四號　十一月二十八日發賣

新國家設計批判……橘樸

時事　蔣介石の滿洲事變對案／事變後の滿洲經濟概況／國民黨と出版法……外十項

資料　民國十九年中滿輸出入貿易の傾向／北滿輸入貿易の……

學良政團の崩壞

十字路に立つ聯盟……往一路

滿洲より左翼の友へ……貴志英夫

滿洲問題と反對派……小山貞知 矢間恒耀

一部十錢

大連市淡路町七番地 滿洲評論社 電話二一七一六番・振替大連一六五八番

緊縮節約の折柄
特に宿料の勉強と親切町
噂をモットーと致します
大連市信濃町
東旅館
富士屋旅館

Fa mi 1931. OCT.

時局多事の秋

在滿の婦人達は經濟的に覺めよ

我軍人の意氣と同じ氣持で

細萱大連彌生高女校長談

無謀な支那軍隊のため日夜をわかたず在滿邦人の生命財産保護のために零下三十餘度といふ酷寒を物ともせず僅かの兵力を以て雲霞の如き支那兵に當つてゐる我が勇敢なる兵士を憶ふ時、我日本婦人殊に滿洲女性は家庭にあつても彼の我軍人の意氣と同じ氣持ちで自覺した

生活を したいものです

今回の事變突發後滿鮮の學校及び軍隊を十月十二日から約十日間にわたり視察慰問して歸連した細萱大連彌生高女校長は時局に際しての我が滿洲女性の自覺について次の如く語りました

今度奥地に參り我が軍人が身命を賭して國家のために働いて居られるのを見て實に感激させられ、その苦心に對してはたゞご苦勞樣と申すより他に言葉がありません、このご苦勞樣の一言の中に總てを言ひ盡して他にお禮の言葉もありませんでした、斯うした無風地帶大連に無事に住んでゐますと何も分りませんが、私等が一朝にして斯うした

國難に あひますとやはり私的生活を打ち覷り民族的生活に弱く生きてる事を強く自覺し喜しく思つてゐます、奥地、奉天、長春邊りの我が女性が時局に直面してゐる關係上、こちらに住んでゐられる女性に比しますと、それだけ眞劍で非常に甲斐々々しく働いて居られました長春の女學生等は特別教室、講堂など教室を軍人の宿舍に充て生徒が軍人の食事の仕度を手傳つたりして大いに働いてゐるのには大へん感動させられました大連あたりでも新聞によつて刺戟され、婦人方が協力して大いに我軍人のため

慰問袋 を募集したりしてゐますが、今日となつては慰問袋よりも今後は軍事費の足しに獻金した方が軍部の方でもお役にすぐ立つのぢやないでせうか大きい團體が主催になつて獻金募集をやつたらどうだらうかと思ひます、先日は本校でも悲惨な鮮人避難民のために古着などを集めましたところ相當澤山の着物が集まり好成績を擧げました、私にとつて不思議に思はれてならない事は滿洲の人は所謂植民地氣分で相當贅澤されてゐるやうですが、私は植民地氣分とはこの反對で、植民地では大いに働き、働いて得た金は出來るだけ

經濟的 に使用し、大いに貯金しその金は故國へ持ち歸るといふやうな氣分だと思ひます滿洲の女性は一體に細かい點に不注意のやうに見うけられますが、支那銀の相場にも少し注意すれば良いと思ひます、又一般に働く事を嫌はれ、何んでも仕事は支那人にさせるといふ具合ですが、もつと引きしまつた心でこの時局に直面してもつと經濟的に關心を持つて欲しいと思ひます

面白味を感じて大自然に接する

冬の健康増進について

大連醫師會長 辻慶太郎

私の國に 「下司炬燵は臼の側」と云ふ諺があります、寒天に火鉢で手を溫むる位では身體が寒くてたまりません、其の時臼を出して米をつき始むると全身に汗ばみて少しも寒さを感ぜず快感を覺えます、運動で自力で溫まるから炬燵となるわけであります。小川市長の話に北陸地方は雪が多くて冬は蟄居して居たがスキーの流行以來一般に健康が増進したと云ふことであります、それは運動と日光浴と新鮮の空氣を吸ふから

健康増進 するは當然であります、當市は雪が少くスキーには不適だが氷は立ち所に出來るからスケートが最も適切である、老も若きも子供もスケートをやる樣に獎勵して面白味を感ずると同時に運動と日光と新鮮な空氣を吸ふ樣にしたならば冬の健康増進に一番良い、殊に呼吸器は半減すると思ひます、又ゴルフ等も同目的で甚だよい、要するに趣味と實益と兼ねざれば永續するものではありません、面白味を感じて大自然に接することが大切であります、彼の修養團の朝起山登り等は此の意味で大いに推獎すべきことゝ思ひます

皆さんが 運動と日光と空氣とを頭に入れて御家庭の異なるに從つて永續するやうに工夫されたい、たゞ單に斯樣にしろと口で云ふても實行出來るものではありません。私の日常生活の概要を述べて見ませう、私は犬好きでセパードを飼つて居りますが午前六時頃になりますと犬が尾や鼻先で窓硝子をコツ〳〵と叩きますから彼も尿尿をしたからう、睡いが寢ても居れず飛び起きて犬を連れて散歩に出かける、その後で窓を明け放つて掃除をさせる、三十分乃至一時間犬と驅足したり深呼吸したりして歸り犬に

ブラッシをかけ してやつてから自分の顏を洗ひ

冷水摩擦 全身を摩擦拂拭して神佛に香火を獻じ禮拜し十五分間讀經して精神の統一を圖り終れば朝飯をすまし一寸新聞を見てから診察を始めます（去る十七日JQAKから放送された講演要旨）

食物も或る程度原始に還元の事

面白い齲齒のお話

關東州齒科醫師會長 日下卓四郎氏（講演）

齲齒になつた齒から色々な病原菌が證明されます、元來口の中には無數のしかも種々な種類の病原菌が居ります、また性質不明な菌が居るのです、健康な口の中では普通これ等の菌は毒力で非常に弱つて居ますが一朝彼等の生活條件に適合して來ると例へば齲齒の窩洞から齒の神經の方へ侵入するとか或は口の粘膜に炎症を起したりすると彼等は本來の猛烈な毒力を恢復して來るのであります、結核菌が此處から這入れば粘膜の結核や頸腺の結核即ち瘰癧を起します。◇溝口さんを斃した放線狀菌なども口の粘膜や齲齒から侵入して顎骨附近の放線菌病を起すことがあります、一代の麗人九條武子夫人も齲齒が原因で膿毒敗血症のために果敢なく散つて逝かれた、こんな例は幾らでもあるのです。一體近代文明民族は何故齒が弱くなつたのであるか、無論齒だけではない全體に身體が弱くなつて居る、これは一口にいへばわれ〳〵の生活樣式即ち衣食住がさうさせたのであります、その中で殊に著るしいのは齲齒が多くなつたことです運動を獎勵し營養に注意する、不攝生をしないやうに等々あらゆる努力も必要でせうがもつと〳〵根本に溯つて今日の生活樣式に觸れなければならない◇

食物も或る程度原始に還元することが必要である、食物の調理を餘りやり過ぎて何でも軟かいものは消化がよいとされて齒を使用することがなくなり、しかもその結果自然の與へた食物の中の大切な或成分を失ひ單に味覺本位に陷つてしまつた調理によつて失はれて行く成分にはヴイタミンだの石灰分だの骨や齒の發育に必要な物が澤山ある、生活樣式や環境が齲齒に非常な關係がある、適切な例は或人が南米アマゾン河の流域のパラ地方で野生の猿と其地の動物園の猿の頭蓋骨を約五百檢査した結果野生の猿には齲齒がないが動物園のものは大分齲齒に罹つて居ることを發見した、この動物園の猿は動物園で生れたものでなく、また動物園の設備も自然の森林を利用し水なども谷川の水を飮ませるやうにしてゐる、唯果物は主として軟かいバナ、を與へて居つたのでありますが食物と、捕へられて動物園に置かれたと云ふ爲めに身體の物質交換に變調を來して斯樣な非違が現はれたのであらうといはれて居ります【これは去る十七日關東州齒科醫師會長日下卓四郎氏によつてなされたラヂオ放送の要旨です】

雷太郎物語（22）

まさもと作　河野久畫

一　中から坊主が出て來ました「おれをこの鐘撞堂の坊主にしてくれないか」坊さんは目をぱちくりしました。

二　「おれが鬼を退治てやるから」雷太郎は坊さんの後から寺にはいりました「又この男も可哀想なことだ」と坊さんは思ひました

三　「おれの腕前を見せてやるぞ さあ飯でも食つてれ」夕方になると雷太郎はどつかり坐り込んで十杯も廿杯も飯を食ひました

四　「さあこれでいゝ」雷太郎はいゝ機嫌になつて、のこ〳〵鐘撞堂へ上つて行きました。ゴーン　ゴーン　ゴーン

羽衣の話（上）

峰ふぶき

山に圍まれて、小さな湖がありました。

湖はいつもおだやかに、波の立ちさわぐこともなく、晝は周圍の山影を寫して鏡のやうに澄み、夜は大空にまたゝく星影を宿して靜かに眠つて居りました。

湖のほとりには小さな村が一つありました。

村の人は山に薪を伐り、田に稻を播き、湖に魚を求めて、まづしいけれども、たのしい朝夕を送つてゐました。

次郎太はこの村に育つた若者でした。兩親もなく、兄弟もなく、ほんの一人ぼつちでしたが、村の人は誰も親切でしたから、すく〳〵大きくなつていきました。小さい時から、湖と仲よしで、村の人から「かつぱ」といはれるほど、水およぎが上手でした。

尻きれ草履をはいて、陽にやけた肩に或時は釣竿を、或時は櫂をかついだ次郎太の姿が毎日の樣にはまべに見られました。

それは淋しいこの村に春が來て山はいつか雪の衣をぬぎすてゝ、かすみに包まれる頃のことでした。

居眠りを催す樣な春の晝です。湖は空と同じ色にすんで、岸の柳もゆらぎません、次郎太は、鼻唄をうたひながらいゝ氣持になつて、水ぎはに立つてゐました。舟一つ浮んでゐない湖に、かひつぶりが浮いたり沈んだりしながらおよいでゐました。

どこからかプーンとよい匂がたゞよふて來ます、次郎太がふとみると、そばの柳の枝に、みたこともない美しいやはらかな衣がかけられてゐるのです。おもはずはしりよつて、その衣にふれてみました。衣はかるくてすきとほるやうに光つてゐました。

次郎太はよろこびました。「めづらしいものが手に入つたものだ。はやくもつてかへらう」いそ〳〵と衣をかゝへて家へかへつて行きました。そして衣は幾重にもきれに包まれて大事にしまはれました。

さてほどなく次郎太が何氣ない顏をして、さきほどのはまべに出て見ますと、柳の木のかげには世にもまれな美しい乙女が、木によりかゝつて泣いて居りました。

次郎太はほつとしましたが、そばへよつて泣くわけをたづねました。乙女は「私が水浴をしてゐるまに、大切な羽衣がなくなつて空へかへることができなくなりました」と申しました。次郎太はいろ〳〵と乙女をなぐさめながら、まづしい自分の住居へつれてかへりました。けれども衣のことは一口も話しませんでした。

そのうちに春もすぎ夏もすぎていきました。

乙女は一日として、なつかしい空の家をわすれたことはありませんでしたが、あの羽衣がなくてはかへることも出來ず、次郎太の親切になぐさめられて暮して居りました。地上に誰一人たよる人のない乙女は次郎太を力とたのんでゐました。二人は仲のよい兄妹のやうに、山へ行つて木の實をさがし湖に舟を浮べて、魚をとるなど樂しい日がつゞきました。

秋もだん〳〵深くなつて、村人は稻の刈入れに忙しくなりました秋も終りとなる頃には村人の家の土間に俵の山が出來、村人はいそ〳〵と冬ごもりの用意にかゝりはじめました。もみをとつたあとの藁は冬中のたきものとしてみな天井の物置に貯へられるのでした。

滿日各地版

傷病兵士の看護に 各地婦人團の活躍
毎日交代して奔走

【奉天】今回の事變以來奉天衛戍病院分院に收容された名譽の負傷者を看護して一日も早く癒させたいとの眞心から奉天赤十字社篤志婦人會員及び將校婦人會では會員が相互に同病院に赴き廿六日から是等傷病兵の看護に努めることになつた、第一日は野田赤十字病院長、立川奉天署長、野村赤十字分院長、村岡大倉組支店長の四夫人に將校婦人會から三名都合七名が廿六日午前九時衛戍病院に赴き一々鄭重に看護をなす處あつたが傷病兵はこの手厚い看護にたゞ感涙にむせんでゐるのみである

遼陽でも大活動

【遼陽】遼陽各團體の婦人連は毎日交代で衛戍病院に入院中の傷病兵看護の手傳ひに從事して居るが廿六日輕傷者四十名が旅順衛戍病院に轉送されたるも更に同日百名の負傷者が還送されて來たので廿八日來着の赤十字社救護班のみでは手不足と云ふ關係から聯合婦人會員を毎日十四人宛左記日割に依り手傳つて貰ふ事に社會係で斡旋中であるが尤も居留民會でも婦人會組織に着手中なれば出來次第參加する意嚮であると

▲二十六日將校婦人會六人俱樂部婦人會八人▲廿七日將校婦人會六人基督教五人處女會一人▲廿八日將校婦人會六人福田寺會二人高野山四人俱樂部二人▲廿九日將校婦人會六人郵便局六人俱樂部二人▲三十日將校婦人會六人金光教三人電燈公司五人▲十二月一日將校婦人會六人滿紡六人俱樂部二人▲二日將校婦人會六人西本願寺六人俱樂部二人▲三日將校婦人會六人興國寺五人處女會三人

傷病兵轉院

【鐵嶺】當衛戍病院では廿六日六十餘名の戰傷兵を收容する事となつたので全快の近づきつゝある輕傷患者を旅順及び公主嶺、長春等各分院に轉院せしむべく同日二回に分け十三名を旅順に二十六名を北方に移したが驛頭には多數の市民が見送り戰傷勇士を慰めた

鞍山驛を通過

【鞍山】北滿の戰鬪に於て名譽の負傷をした我旅順重砲兵隊の勇士約四十名は二十六日午前九時二十四分鞍山驛發列車にて通過したが驛頭には鞍山民局委員會員、在鄉軍人分會、實業青年團員、青年聯盟支部、婦人會其他官民多數の見送りを受け萬歳聲裡出發した

傷病兵到着

【公主嶺】二十六日午後三時二十三分當驛着の北行列車にてチチハル方面の激戰に於ける傷病者十六名來公當地衛戍病院に於て加療することになつたが來着した十六名の全部は凍傷患者である

傷病兵士通過

【普蘭店】二十六日午後二時五十五分上り列車にて大興方面の戰鬪に參加し名譽の負傷をした白衣の勇士等が普蘭店驛通過南行した主として十六聯隊の兵士で旅順衛戍病院に收容される由である驛頭には軍人分會旗を先頭に官民學校生徒等多數迎送した

旅順收容者

【旅順】二十六日旅順衛戍病院へ第一回收容戰傷者の氏名左の如し

▲一等兵高橋勝二▲同安任久志▲軍曹後藤藤次▲一等兵大友敦▲同小池源吉▲同佐々木喜代太▲同阿部豐司▲同倉内長一▲上等兵木村喜代治▲二等兵山川清一▲同伊藤忠雄▲一等兵高橋輝見▲二等兵小川正男

一等兵戰死

【鐵嶺】嫩江方面の形勢急迫するや最前線に出動し活躍してゐた鐵嶺工兵隊花井大尉以下の將校下士兵は引續き北滿の地に活動し目下チチハル附近に滯陣せる模樣なるが同中隊一等兵平井幸達君は十九日夜チチハル北方二三里の地點に於て某重大任務遂行中名譽の戰死を遂げたる旨情報があつた今回の事變に於て鐵嶺駐屯部隊の戰死者はこれで二人となつた

北滿の戰場から 我勇士歸る
苦鬪を偲ばせる戎衣

【鐵嶺】北滿に降り積む雪を日東帝國男兒の血潮を以て紅に染め連日連夜壯烈なる戰鬪を續け武威を輝かせた我勇士二百四十一名は二十六日午後二時五十分臨時列車にて鐵嶺に到着した、一行のうち步兵四聯隊六十四名、野砲二聯隊一名、鐵嶺工兵隊四名、合計六十九名(凍傷四十五名、戰傷二十四名)は鐵嶺衛戍病院に入院すべく下車し他は更に南行したるが鐵嶺工兵隊四名は全部戰傷で伍長不田寅一、一等兵岩牛源三郎、早一直次、二等兵渡邊七男君等である、下車せる一行は病院自動車及び警察自動車二臺で病院に收容されたが中には重傷數名あり勇士達は何れも蓬頭垢面連日の惡戰苦鬪を偲ばせ戎衣を鮮血に彩り言外に奮戰を物語つてゐた人もあつた。驛頭には出迎への官民、學生人垣を作りこれ等の勇士に對し心からなる感謝を捧げ南行の勇士達には全快を祈る温かい言葉を送つた

四洮洮昂直通列車運轉

【四平街】四洮、洮昂兩鐵路は時局の推移に伴れ去る廿六日より四平街よりチチハルまで直通運轉をなす事となり從つて列車發着時間は左記の如く改正せられた

▲第一列車(四平街發) 四平街發 十一時三十分 洮南着 二十一時 同發 二十二時 龍江着(チチハル) 八時

▲第三列車 同右 四平街發 二十二時 洮南着 七時五十分 同發 八時三十分 龍江着 十七時三十分

▲第二列車(四平街着) 龍江發 九時 洮南着 十八時十分 同發 二十時 四平街着 六時三十分

▲第四列車(同右) 龍江發 二十時三十分 洮南着 六時四十分 同發 八時 四平街着 十七時

右列車の編成は三等手荷物郵便車一輛、二等車及食堂車一輛、二等車一輛、三等車二輛、計六輛連結であると、なほ右列車の外當地鄭家屯間に左の列車運轉をなすと

▲第二十一列車 四平街發 八時 鄭家屯着 十一時

▲第二十三列車 鄭家屯發 十一時 四平街着 十四時

奉天の各小學校 軍警慰問金醵出
保護者の承諾を得て

【奉天】寒さものかは終日終夜國のため獻身的努力を續けてゐる軍部、警察官等に對しては市民からも感謝の意を表し各種方法で慰問してゐるが一方春日、附屬、加茂、敷島の五小學校でも僅かながら醵金を募集して各校の兒童總代持寄り來月三日軍部及び警察官を訪問し見舞の挨拶をなし醵金を贈ることになり二十六日各保護者に贊成方依頼したその醵金は一人につき五錢以下であるこの擧に對しては職員一同も進んで獻金に加入するかも知れません

國防費を獻金

【開原】開原時局後援會は委員會の協議に依り協力一致家計を節して國防費獻金せんと發起し十一月廿五日左の規定に依り募集に着手した

一、獻金額 一人金十錢以上
一、期間 自十一月二十五日至十二月十五日
一、申込個所 開原時局後援會(地方事務所内)
一、受領證 開原新報紙上掲載し之に代ゆ

女子青年代表

【鐵嶺】日本女子青年團主事野田松平氏の引率する全國女子青年代表十名は二十五日午後六時半着列車にて來鐵同夜滿鐵クラブに於て出身各縣人會員の歡迎會に臨み松花ホテルに一泊、翌朝軍隊、警察、領事館を訪れて慰問し十時半發列車にて南行した

中隊長の芳情

【開原】先に開原縣二社窩棚にて匪賊討伐の際戰死した開原縣自治警察隊員五名負傷者九名に對し開原守備中隊長飯田大尉は其の勇敢なる行動を賞し戰死者一人に付大洋二百圓宛負傷者一人に付大洋百元宛を贈與したが負傷者並に戰死者遺族は何れも其の芳情に感激して居る

工大生の醵金

【旅順】旅順工大豫科生一同は廿五日午後一時から寄宿舍に集合我が出動部隊一同の勞苦に酬ゆるため又一面各自の勤儉精神の向上を圖るため本月末より毎月各二十錢を醵出し別項の如く軍資金の一部へ寄贈する事となつた石丸生徒監は語る

時局の推移に隨ひ學生一同も異常な緊張味を加へ愛國的精神の發露は目覺しきものがあります當初は多少無關心な二、三の者も無いでは無かつた樣ですが昨今の狀況を觀ますとそれは一時の杞憂に過ぎず我が將士の勞苦を想ひその敬虔と感謝の有樣を見て非常に欣快に思ひます今回

全旅順の新願祭
各團體機關總出動で 來る二十九日擧行

【旅順】來る二十九日擧行する旅順全市民の祈願祭及び愛國デーは旅順一小、二小、一中、女學校、工大、青訓、青職、在鄉軍人、各宗教婦人團體、少年團、各官衙、公學堂職員、一般市民を合し約三千餘名旅順未曾有の大行進を現出するもので當日行進序列中には各町內旗、團體旗は勿論三千の小旗を持ち白玉山西道を下り日本橋=乙女橋を渡り軍司令部前より中村町大廣場に出て大迫町通りを一路東洋橋に出て乃木町大通を通過迎橋より一路新市場前を通過し葉前を右折教場溝に沿ひ關東倉庫を右へ大津町、名古屋町、忠海町より青葉町通りより昭和園前に至り解散するもので此間行程約三里を走破するが昭和園到着解散は概ね四時頃の豫定で當日は正午迄に白玉山納骨祠前に集合直に青聯支部長の挨拶、君が代、出動部隊の武運長久祈願式、萬歲三唱の後示威行進を開始する、因に當日佩用の「愛國デーマーク」は青聯委員又は各町總代から學生は五錢、大人十錢の實費で配布する

馬賊と交戰
蘆家屯を襲つた賊 殘存部隊は全滅す

【熊岳城】二十四日以來蘆家屯沙崗熊岳城方面に出沒掠奪をほしいまゝにし世人を騷がした馬賊の一隊は二十四―夕海上に逃亡し其の一隊は北方に逃れかくて四離滅列となつたが尚殘りの一部は廿五日蘆家屯方面に現はれ村落を襲ふ等の騷ぎに一時歸宅中の避難民は再び廿五日熊岳城に避難し來り守備隊にては直に出動村落を包圍する等警官隊は同地に徹宵した、然るに明けて廿六日馬賊の一部が楊家屯西方海岸にひそみ居るとの情報あり當地守備隊藤本特務曹長、曾我曹長は四十四五名の兵を引率し午前九時當地出發午前十一時四十分頃四里餘の西海岸に達するや潮時、待ちて海上に逃走せんとする馬賊の一隊に會し頑强に抵抗する賊と交戰二時間餘午後二時頃に至り漸く我が輕機關銃のため沈默十二名の一隊中十一名殺傷、一名を捕虜として午後四時半ごろ本隊に引揚げ來つた、尚同捕虜は原籍安東縣二道溝王海順(二三)にて彼等の頭目は老來好と稱し全隊百餘名これを三組に分ちて蘆家屯沙崗方面を襲つたものであるが日本兵及警官隊の襲擊に一部は北方へ一部はジヤンクにて營口方面へ逃げ殘つた一隊が此の十二名である事を逐一自白した、なほ王は張學良の部下として二ケ年を戰場に立つたが薄給と苦役に堪へかね八月辭して老來好の部下に走つた者だと云ふ、實に奧地より歸營早々休む間も無く右の活動に移つた當地守備兵は其の甲斐あつて此の大集團を一掃し最後の一隊をも全滅せしめて小銃八挙銃二を押收意氣揚々と五日歸營した

法庫門に匪賊

【鐵嶺】縣下第七區公安分隊の情報によれば二十六日當地西北三十支里法庫縣塔條溝子に六百餘の優勢なる馬賊掠奪中なりといふが法庫門には約二個旅の正規軍駐屯し頻りに匪賊討伐と稱し各地に出動せる模樣なるも何時兵匪となるや知れず北方開原縣境には數百の馬賊潜伏あり南方には三四百の兵匪機を狙ひつゝあるなど鐵嶺縣昨今の形勢は全く賊團に包圍されたる如き觀がある

遼陽附近匪賊

【遼陽】遼陽東南孟家房村に頭目黑東洋以下二十餘名の匪賊が二十五日來襲同村李村長に對し銃器彈藥の調達を命じたので李村長は止むなく長銃二挺と拳銃一挺彈藥二百數十發を提供せるに賊團は更に隣村旭嘉溝に使を派し長銃六挺彈藥三百七十發の提供を强要し當孟家房村に潜伏中であるとの頭目中國は去る廿一日城南徐家屯村長を人質に拉去せるが廿四日午前十時ころ身代金五萬元の要求書を持たし千山二道溝に持參すべしとありしより第一分區自警團長は部下三十名を率ゐて討伐に向つたと

慘殺犯人銃殺

【公主嶺】既報公主嶺市內市場町二丁目居住李海亭の實子二名の娘を范家屯の料亭に現大洋四百圓にて賣渡した該金の內若干を無心した山東生れの無賴漢徐興國はこれを拒絕され激怒同家にありし手斧及鐵槌をもつて李海亭及同人妻郭氏の兩名を慘殺逃走したとの急報に警察署は嚴探續行中のところ古田刑事は犯人が鐵嶺方面に高飛びせる形勢に目星をつけ追跡の結果同地の德盛客棧に潜伏しなるを突きとめ同所警官の應援を求め奮鬪逮捕し歸署したのである犯人徐は嚴重なる取調に包みきれず罪狀を自白したので嚴罰に處すべく支那官憲に引渡したところ殺人犯として殊に兵匪の懷害に嚴戒中なので二十五日午前八時支那町西門外の刑場に於て銃殺に處した

謹告

本社大石橋支局長を左記の通り更任致候に付此段謹告候也

記

新任 大石橋支局長 大石橋宣武街 美座時省
退任 伊藤謙次郎

十一月廿七日 滿洲日報社

滿紡華工窒息

【遼陽】遼陽滿洲紡績の華工徐煥文(二三)は廿三日棉作業中過つて棉樽內に墜落窒息せるを從事員が發見手當の結果一旦蘇生せるも翌廿四日死亡した

沿線往來

▲三島子爵 廿六日四平街へ
▲比佐陸軍省參與官 廿五日夜來奉
▲津上春七氏(日滿通信社長) 廿五日來奉ヤマトホテル
▲中谷關東廳警務局長 廿六日鐵嶺へ廿七日來奉ヤマトホテル一泊廿八日十三時半發列車で撫順へ
▲加世田金州時局委員會長 廿六日遼陽へ軍隊各部を慰問同日南行
▲花輪司法領事 廿六日來遼同日歸奉
▲古川奉天鐵道課長 廿六日來遼衛戍病院に傷病兵を見舞ひ慰問品を贈呈した
▲林清藤氏(鞍山不動產信託會社專務) 二十六日赴遼
▲石田外信氏(新任奉天日日新聞大連支社通信部長) 十二月一日奉天發赴任の筈

匪賊討伐戰をみる
降りしきる一面の雪の中に 蘆家屯の討伐戰

二十四日の朝八時頃蘆家屯驛を距る一里の地點に發蓬と云ふ村落に匪賊約百五十名來り盛に掠奪放火暴行の限りを盡して居るとの飛報に接した瓦房店守備隊及警察署にては直に全員非常召集を行ひ佐藤署長自ら出動する事となり原警部補ト村柳瀬兩部長以下巡査二十餘名緊張裡に午前九時發の列車に投じ現場に向け出發した

之より前大石橋警察署及守備隊にも同樣の報が入つたので猪苗代署長以下警官二十餘名守備兵數名と共に急行したのである然るに賊は鐵道線路西方五丁位所謂前記蓬の村落なる土塀の中に蟠居して少しも樣子が判らない折柄一支那人が來りて賊は村落の西南方面に集つて居ると報じたので大石橋の一隊は部落の西北に潜行した所豈らんや賊の詐術に陷つたので却て其附近に賊が居り我隊に一齊射擊を加へたので地物の利用はなし急遽に家屋の一角に突進して茲に彼我の激戰が行はれた、賊は多勢をたのみ包圍の形勢に出て我が隊は彈丸の缺乏と地形の不利とで一時は危險に陷り彈丸の補充と瓦房店よりの應援とを待つ事甚だ急であつた

瓦房店の一隊を乘せたる輕便動車は正午頃其の附近に着いた、之を見たる賊は直に之に一齊射擊を加へたので佐藤署長は下車と共に線路に散開し伏勢を取らしめ射擊を交換した、此時我隊の陣容は東方より向つて中央は濱田曹長の指揮せる守備隊と右翼は大石橋左翼は瓦房店の警察隊である大石橋隊は應援の來着と彈丸の補充に依り勇氣百倍し茲に全員總攻擊を開始したので賊も遂に民家に放火して逃走の準備をなし二途に分れて西方海岸を指して逃走を開始した賊は死體二個を殘し負傷者は全部收容したらしい部落民の話に依れば賊は二十三日の夜より暴行を逞ふし人質老幼男女を問はず八十四名を拉去したのみならず殺害、毆打、刺傷等の傷害を加へ野獸の如く悲鳴を擧げて居る者も多かつた我討伐隊は時を移さず直に追擊戰に轉じ包圍の形勢にて追跡した賊も元より優勢を示して居るので時々踏止まりては頑强に抵抗し賊の本隊を掩護し逃走を容易ならしめた、此附近一帶は山又山の瘠地にして人家もなく討伐隊の困苦缺乏想像以上である大石橋の一隊は晝食もまだしないのである

午後二時半頃海岸迄は約一里の行程である、賊も本式に逃げ始めた此附近よりは山は絕對になく一望千里の平原が現はれた此の頃から一天暴を流した樣に曇り北風強く吹くかと見る間に霏雪紛々として咫尺を辨ぜぬ事となつた、追擊又追擊の號令が下る躍進又躍進雪の平原を縫ふて我隊は一路海岸に向け賊を追詰めた

賊は豫じめ準備しある帆船三隻に分乘し二隻は早くも帆を揚げ沖合指して乘り出した一隻は將に乘り出さんとして頻りに帆を揚げつつある、之を見たる我隊は好機逸すべからずとなし直に一齊射擊を加へたので一隻は容易に出帆する事が出來ないのみならず乘り遅れた約二十名位は淺瀨を彷徨して居る海上を泳ぐ者もある、暮るゝに早き冬の日は早くも黃昏を催へ雪は益々降り積んで一面の銀世界と化した之を背景として彼我の怒號罵聲に次で銃砲の音四面に響く激戰中の激戰だつた

此の戰鬪に於て賊の損害は死者約四十、負傷五、六十の多きに達し我大石橋隊の村上、村岡兩巡查は左大腿部及前膊端に何れも貫通銃創を受けたので後送せられ蘆家屯に出張中の瓦房店救護班鈴木醫長の應急手當を受けたが生命には別條ない捕虜胡順榮(二十二年)の言に依れば團長老北風の部下中山好を頭目とせる步隊百五十騎馬三千名より成る部隊にして二十三日遼河の支流約百支里二道溝に集結し同日午後一時頃帆船三隻に分乘南航同日午後八時頃蓋平縣田家莊子(沙崗の西北方二邦里)に上陸行動を開始し午前〇時頃黃家屯に現はれ同部落にて人質十數名を拉去それより大房身に來り二名を殺害し人質三十餘名を拉去更に午前三時頃前記發蓬に來り三名を殺し三十餘名を拉去し多數の金品を强奪し四臺の馬車に滿載して元來た海岸に引返さんとしたのであるが戰利品として追擊砲一門外强奪品の一部馬五頭あつた斯くて我討伐隊は意氣揚々として雪路を踏み八十四名の人質を救出同行して午後七時頃沙崗驛に引揚げ各所屬に凱旋した【瓦房店支局板橋生】

ベスパー　ホーサーン石鹸
(五十倍入)

身も心も　サッパリと

お肌の美を　永久に保つ

ホーサン　五十倍入

販賣店　小間物化粧品店、雜貨店藥店等

特撰

菊羊羹

御進物に！　絶對變質せぬ

小型羊羹を　御子様に

菊園　電四九〇六番　電九二一〇番

届御ドーピス超東次報一御

つちやたび

たびの界の王

體裁優美……堅牢無比

つちや足袋總代理店

合資會社 大連洋行本店

大連市連鎖街電園前

電話長 六〇二一 二二五五 三五三 番

振替大連二九一番

日刊工業新聞

昭和七年工業家當用日記

日刊工業新聞社

外六種　本紙三ケ月間購讀申込者へ進呈

進呈目錄

一、七年工業家當用日記　九百頁の大冊　定價壹円五拾錢　普通日記二倍の大冊隔から隅迄あらゆる商工參考資料に滿ち一年中寸時も手離せぬ當用日記であります

二、七年工業毎日寶典　ポケット型三百頁　定價壹円　便利重寶の手引、顧問として商工業者は毎日一度は必ず本書を繙らねばならぬ貴重な大寶典であります

三、工場安全座談會記錄　合本全一册　新法例「商店法」草案　定價五拾錢　代表的官民大工場と監督官廳出席研究せる工場安全研究記錄と近く發表を見るべき新法律「商店法」の草案であります

四、日本事業會社大番附　新聞二頁大　壁掛用二色刷　全日本の事業會社の中から實際の投下資本を算出せる大番附で壁掛又は店頭工場へ掲出して效果百パーセントです

五、商工大臣筆色紙　床間、壁、茶室掛用　櫻内商相が本社の爲特に執筆された工業立國の色紙で商工業者御家庭の掛物として頗る意義あるものであります

六、メートル換算表　頗る便利美本　綴り出し換算　工場も商店も技術家も學生も一切の商工業者に絕對必要の品で大阪府衡度課の立案編纂されたものであります

七、日本産業行進曲　舶來紙二色版　頗る美麗　商工會議所が多額の賞金を懸けて天下に募集した工業の歌であります商工業者として朝夕三唱すべき國民的一大詩歌であります

進呈方法

今直ぐはがき、電話、振替其他便宜の方法で日刊工業新聞三ケ月間御愛讀御申込下さい購讀確定後上記七種を進呈す

◇本紙定價◇

一ケ月前金壹円・三ケ月前金參円(送料共)

日刊工業新聞社

大阪市中之島五　振大三六三八四

東京市銀座西二　振東五八三一三

內科　小兒科　花柳病科

光畑醫院

大連市紀伊町電車通南

電話七〇六四番

●超スピードねつとづつうにトンプク　ひな散

肌色美顔水

▲だん然人氣の肌色の白粉—

肌色美顔粉白粉

肌色の魅力!!　魅力の肌色!!

何でせう……?

白すぎるお化粧は態とらしく
肌色すぎても不自然です
白すぎず肌色すぎず
自然で淸新で生氣に滿ち
本當に新しい美の感じの出る
肌色の白粉は何でせう?
水白粉では肌色美顔水
粉では肌色の美顔粉白粉
これこそ肌色界の新刺戟
非常な評判になつてゐます！

色の白くない方

脂肪性の方……年

配の方にも適切

進呈品

小型實物大

—肌色美顔水愛用家に—

無代進呈

▲當分の内…
肌色美顔粉白粉(小型)
進呈お送り申上ます—

進呈方法

▲肌色美顔水の中の說明書の餘白に……お所お名前と此廣告御覽の新聞紙名を明瞭に記入して左記本舗サービス係へお送り(開封なれば郵券は二錢)の方に右說明書一枚に付肌色美顔粉白粉(小型)一個宛進呈御送附申上げます。至急お申込み下さい—

美顔白粉本舗
株式會社 桃谷順天館　サービス係
大阪市港區市岡元町五丁目

大連市監部通
嘉納合名會社大連支店
電話 七五五〇一四四五番

內科專門
櫻井內科醫院
大連市吉宕町(天金前)
電話七〇〇〇番

產婦人科
婦人の病は婦人の手で
女醫 永井清子
永井婦人醫院
病室完備入院隨意
大連市若狭町四十三
電話三六六六番

湧起る軍隊への感謝

寒風凛烈の北滿へ 郷軍の慰問團出發

昨夜大連驛頭の混雜

大連在鄕軍人時局同志會では春日兼三郎氏以下十八名の代表を選び派遣各部隊を慰問すべく二十七日午後九時三十分發列車で北上の途についたが、今回の在鄕軍人同志會の主旨は

これを慰問 激勵し、更に進んで母國各地にこの皇軍勞苦の實情を傳へるのは滿洲にある在鄕軍人の義務である

赤々千里の曠野、蒙古風が荒れ狂ふ北滿、こゝに殺人的な酷寒と戰ひつゝ、暴戾飽くなき支那軍と戰ひ、兵匪を討伐する皇軍將士の勞苦は想像以上である、

と云ふにあるが、二十七日午後八時、十九名の代表始め會員一同は忠靈塔前に集合、寒風の吹く中に脫帽、最敬禮をなし、在天の英靈に對し、皇軍の武運長久を祈願すると同時に、今回の同志會の企圖するところを報告し、續いて忠靈塔前より遙かに大連神社を拜禮、同じく祈願報告をなし、いよく出發すべく大連驛に至つたが、驛頭には大連各在鄕軍人分會始め聯派その他關係各團隊並びに同夜十時發の列車で北上した黑志奮護婦團等見送り人はホームをうづめてゐた、九時三十分

列車 が出發せんとするや春日團長は見送り人に對して謝辭と今後の覺悟を述べ、見送り人はこれに答へて幾回となく萬歲を叫び、驛は全く歡呼の聲に滿ちくて大連驛頭は事變以來始めて見る華々しい光景であつた、尙同一行は一路奉天に向ひ同地に於て更に一名の團員を加へ、それより直に各部隊の慰問を開始する筈であるが、來月二十五日頃歸連、引續き母國に渡り東京にて七班に別れ各師團司令部を訪問して在滿軍隊の活躍狀況を傳へる筈である

赤十字救護班 遼陽に向ふ

本部の涙ぐましい情景

滿洲事變に對する日本赤十字社の臨時第一救護班は旅順の滿洲總委員本部に於て廿七日午前十時完結、班長藤城救護醫員、石森書記、制服を着用した吉田婦長外救護看護婦二十一名は同朝關東廳會議室に於て先づ委員總長塚本長官より命令傳達、副總長三浦內務局長より總裁閑院宮殿下の御諭旨捧讀及び塚本總長の諭告等を嚴かに受けて藤城班長之に答へ我澤主事の注意を受けたる後一同同廳玄關にて記念撮影をなし、かくて午後六時五十五分一同は在旅文武官市民多數の見送りを受けて大連經由任地遼陽病院に向つて出發した、因に第一救護班の編成に當つては滿洲養成の赤十字看護婦六十四人中より選出したもので、うち四名はわざく東京、千葉、山田地方より呼び寄せて編成されたが滿洲養成婦は勿論其他の在滿百餘人の資格者達からも猛烈な參加運動が試みられ編成完結の朝の滿洲本部には涙ぐましい情景が展開された

臨時第一救護班 班長救護醫員藤城榮次、救護書記石森義助、救護看護婦長吉田ナカ、救護看護婦宮崎ツタ、同山田ハツ子、同高橋アサノ、同今かつ、同永安トミコ、同多田タエヨ、同楢野龍野、同櫻井きよ、同久保すい、同永浦しげる、同木村コト、同小西君江、同糸山みつ、同溝口濱子、同石川シズ、同宗蓮愛、同宮島チノ、同長田キミノ、同百武シズヱ、同田中敏枝、使丁下村靜

軍隊への献金募集に 滿日婦人團起つ

けふから街路に進出

日支間の風雲はいよく險惡を加へ、わが祖國日本を擧げて正に一大國難に直面せる今日、內地に於ても或は慰問金の募集に、慰問使の派遣に、軍事費の献金に、護國の祈願に、起居も不自由な老人から可憐な小學兒童までが殆ど飯食を忘れて涙ぐましい

活躍を つゞけてゐるが、現地滿洲の一角にありながら大連ではともすればこの時局をよそに安全地帶に安逸に流れやうとすることがないとはいへないやうである。憂國の血に燃ゆる滿日婦人團員一同はこの事變にあたり眞先に出動軍人及警察官吏の勞を犒ふため慰問品の募集に着手し、或は街頭に或は戶別訪問に目覺ましい働きをつゞけたが、今回更に軍隊への献金を募集すべくその手初めとして今二十八日と明二十九日の兩日午後一時より日沒時まで大山通角、伊勢町角、滿鐵本社前、三越前、常盤橋停留所前の

五ケ所 に於て献金を募集する事になつた、團員諸姉は奮つてこのよき働きに參加されたく參加希望者は今二十八日午後一時までに團員章を佩用して本社に參集ありたし、但し荒天の際は延期する筈

防寒具を寄附

市內伊勢町二〇番地玉川樓主熊田[illegible]

幼い園兒達の可憐な眞心

嚴寒の北滿各地で母國のため血のにじむやうな惡戰苦鬪をしてゐるわが派遣軍將士並に沿線居住民の治安維持に當つてゐる警察官の勞を犒ふため沙河口幼稚園の可憐な園兒達百名は二十七日午後四時ごろ保姆鈴木フミ孃に引率されて各一個づゝの慰問袋を携へて沙河口署に出頭し「寒い奧地で働いて居られる叔父さん達にあげて下さい」と幼い園兒達が心を罩めた贈りものを岩井警務主任のもとにいちく持參して來たので同署でも大いに感激し直に發送手續きをなした

[illegible]郎氏は目下奧地方面に應援のため派遣されてゐる小崗子署員十五名のため防寒具としてメリヤスシャツ上下一組づゝに成田山御守を添て廿七日小崗子署へ寄贈した

安田善次郎氏 一萬圓を寄附

【東京特電二十七日發】安田善次郎氏は二十七日陸軍省に金一萬圓を同家族が二千八百圓を在滿軍慰問金として寄附した

軍隊慰問金品 陸軍省に殺到

【東京特電二十七日發】在滿勇士の報國的慰問熱が心からなる慰問金品となつて事變勃發以來陸軍省に殺到してゐるが二十六日までの總額左の如し

慰問金　十三萬三千圓
慰問袋　三十九萬四千個
雜品　六十萬個

花の賣上げを 慰問金に寄附

大連技藝女學校二年生有志加藤シズヱ外八名は二十日より一週間市內目拔の街頭に進出し花賣りを行[illegible]つたが現金六十三圓二十錢を得たので二十七日午後三時半市役所總務課に出頭し出征軍人慰問金に寄附方申出た

少年慰問團 チチハルへ

【チチハル特電廿七日發】三島通陽氏の率ゐるボーイスカウト滿洲派遣軍慰問團は本日正午チチハル着第二師團へ慰問の手傳ひをなした

德島縣慰問使

德島縣聯合會本部常任幹事濱野房吉氏は德島縣代表派遣軍隊慰問使として廿六日の定期船にて來連、廿七日の夜行にて北上した

若槻首相夫人の提唱で 各代議士夫人連も起つ

在滿軍隊に慰問品を醵出

【東京特電二十七日發】在滿軍慰問は今や擧國的となつてゐるが各代議士夫人連も敢々立つことゝなり首相夫人德子さんの提唱で廿七日午後一時より首相官邸で與黨貴衆兩院議員夫人の會合を催し在京夫人連は勿論各地の夫人百五十名參集參謀本部の稻村大佐から滿洲事變原因經過、山川端夫博士より理事會の狀況說明あり德子夫人の發起で各自慰問品を匿名で醵出陸軍省を經て在滿將士を慰問することゝし四時過ぎ散會した

早やボーナスの噂

警官等には例年程度にしたいと 關東廳のやりくり

月日のたつのは早いもので、今年もやがて師走が迫り正月を迎ふることになつて各會社や官廳務めの家庭では時局談もさることながら主婦の話は家計第一とばかりボーナス話が持ち出さる、時期が來たそこで先頃來減俸沙汰で大恐慌を來してゐる關東廳でも首は首ボーナスはボーナスとばかり首とボーナスのケジメ宜しく己がじし賞與の多からんことをこれ願ひ且つ

食道 の話も仲々賑やかであるが、節約々々減收赤字と當延豫算から同二百萬圓も豫算の切詰めを餘儀なくされた貧乏世帶の同廳のお臺所口經理課をのぞいてみると、昨年も減俸騷ぎや緊縮々々で例年本俸月額三十割の賞與を高等官も判任官も雇傭人も一率に二十五割に減らして總額七十七萬二千餘圓を之に振り向けたが今年はどうしても年內に整理でもやれば豫算の計算が合ふまいと心配されたくらゐなので、到底昨年通りの賞與などは思ひもよらずそれでも何とかして先づ二十割位にはしたいとあつて臺所では目下折角ボーナス豫算の

捻出 に一生懸命であるので大體こんなところで支給さるゝかと見られこゝもと首があればさして慾も云はれまいと云つたところだ、尤も時局柄州外殊に奉天以北の警察官や遞信局員などには此際御苦勞分に多少の色がつけられて昨年同樣程度になるらしいので時局柄警務局關係だけは首の心配はなし賞與は昨年通りと兩手に花で「今年やサーベルの當り年」となわけであるが、支給期は例年通りで十二月に入ると間もなく十日前後には交附の筈であると

大西氏の遺骨

旅順駐劄步兵第三十聯隊酒保の御用商人として過日の大興激戰に從軍、敵彈に斃れた殉職御用商人旅順市金比羅町大西萬次郎氏の遺骨は廿八日午前九時十分旅順驛着列車で到着の筈

滿鐵線を破壞し 日本人殺害

恐るべき匪賊の計畫 鞍山附近匪賊

大石橋獨立守備隊の手により捕縛となつた匪賊王海順は引續き大隊本部に於て取調べ中なるも彼は張學良氏より滿鐵沿線を破壞し附屬地の日本人を殺害せよとの命を受けて派遣された旨自白した、而して鐵道線のボルトを引はづすべき任務をかくし持ち百人一組の中の一人であることを自白した、右重大なる自白を受けて守備隊では遽に緊張し今後匪賊の討伐を徹底的に敢行する筈【大石橋電話】

大石橋獨立守備隊より鞍山へ派遣中の第三中隊から廿七日午後六時本隊に達せる情報によれば鞍山西方三里餘の地點富家河柵に匪賊三勝の率ゐる七百餘名の大部隊が進出した三中隊では目下斥候を以て偵察中、而して事實と判明せば直に大隊は出動して討伐に向ふ筈、尙千山附近に馬賊出沒の情報あるも確實ならず、守備隊、警察は大孤山を搜査中【大石橋電】

皇軍の武運に吉祥

虎尾を履んで人を咥はず 帝位を履んで疚しからず 呑象氏の占ひに 本庄さんの微笑

「天津で日支兩軍正面衝突す」「錦州軍いよく攻勢に出づ」等と續々と入る情報に緊張し切つた二十七日の午前十時頃、軍司令部たる東拓の玄關に、飄々乎として現はれた一邦人が、本庄軍司令官に面會を申し込んだ「易をたてて皇軍の武運を占つたから是非軍司令官に面會したい、自分は小玉呑象といふ易者だ」この言葉に軍司令官が面會して見ると、小玉氏は「今鄕九時頃に卦を立てたが、この樣ながら取り出して見て[illegible]」と云ひながら占つた易の結果を[illegible]紙片には次の如く記してあつた

☰☱ 天澤履ノ九十五

履ハ小也大于履ム也、兌ンデ天ニ應ジ、是ヲ以テ虎尾ヲ履ンデ人ヲ咥ハズ、剛中ノ正、帝位ヲ履ンデ疚シカラズ、光明也

とあり、小玉氏の說明によると、履は履むなり、動くなり、とあつて、我が軍は今後ともに猛虎の勢を以て進擊し、地の利を占めて敵の大軍を巧に擊退し、これに加ふるに天祐の機會と天候の順溫さを得て我が軍の進擊には些の故障もなく、ために我が軍には負傷者も至つて少なく、二十八日夜には皇軍の威武大いに揚り、展開包圍の陣形に敵の要所を潰滅するの吉象であつてこれを「虎尾を履んで人を咥はず」と云ひ、更に「夬旋レバ大吉也」と易に出てゐる、尙會戰に於て國際聯盟にあつては大いに我が軍の出動の正しきことを確認することに輿論は決定すべく、これを「剛は中正にして帝位を履んで疚しからず、光明なり」といふ所以である

と說明し、言葉を續けて滿洲三千萬の大衆大いに意を強ふして可なるべし

と云つたが、本庄軍司令官はこの易を見、說明を聞いて我が軍の武運が益々長久であると、幕僚と共に大いに喜んだとのことである【奉天電話】

全滿刀劍大會

いよく本日より 午前十時から四時まで 滿日講堂において

▲午前十時刀靈祭▲午後零時半高野範士の試斬▲午後二時加島勳氏講演

附記……場內整理料として金十錢を申受けます

時局後援會から 州內增兵を電請

昨日常任委員會決議

在滿日本人時局後援會では二十七日午後四時四十分から市役所會議室に於て常任委員會を開催、小川[illegible]

新民のわが〇〇中隊 本社西村特派員撮影

【下】は昨夜出發した郷軍慰問團の忠靈塔參拜

曙の鐘（122）

倉田潮

河野想多畫

黎明（二）

春木は淺輪に聲をかけられるさ急に力づいて、壯三をはねかへし素早く立ち上つた。淺輪は再び跳びかからうとする壯三の襟くびをつかんで

「春木さん、こいつは何者です」

と、笑ひながら訊いた。痩てゐるのに、胸ぐらをとつた手は、鐵ばりのやうに壯三を動かさなかつた。春木は救はれたやうに思ひながら

「それが大山剛太郎の長男の壯三ですよ」

「あゝ、こいつですか。成る程、ぢや、たえ子さんの後を追ひかけるのも無理はない」

淺輪は素早く胸ぐらをつかんだ手をはづして壯三の頰をぴしりと打つはたくさ、直またその手で襟をつかんだ。壯三は齒を食ひしばり眼をかつと見開いて、淺輪にむしりつかうとしたが、襟をつかんだ手が鐵棒のやうに堅いので、壯三はたゞもがくやうに兩手を振つたばかりだつた。

春木は今も息を切りながら、剛太郎が瀕死の傷を負はされたこと、その犯人が壯三であるらしいことを話した。淺輪は驚いて

「ぢや、春木さんも今夜あの洋館にゐたんですね」と微笑を浮べたが、今度は壯三に向つて「剛太郎を殺したのはとにかく大出來だ」

「いゝや、僕は殺しはしない」と壯三は胸ぐらをとられたまゝ驚いてうなつた。「持つて行つた斧のみねで輕く打つただけだ。でも本當に死んでゐたのか」

「事實が證明する。本當に死んだか何うかしらないが、とにかく瀕死の傷を負つてゐたことは事實だ」

壯三はそれを聞くと悔ろしげに顔をしかめて身を顫はした。

「何だ、知つてるくせに」と春木は怒鳴りつけた。「瀕死の傷を負はしたことを知つてたから、怖ろしくなつて一度逃げたんぢやないか」

「さうぢやない、たえ子のゐるところを白狀しないからみね打ちを食はしたら、父が斃れながら「地下室、地下室」と呟いたから下に行つたのだ。逃げたのぢやない。しかし、地下室にたえ子がゐないから、一階二階と上りながら部屋ぢうを探し廻つてゐたら、三階で貴樣がたえ子をかくれてゐるのを見つけたのだ」

「でも、女中達は貴樣が死にものぐるひの自棄まぎれに、またあばれ出したと云つたぞ」

「父を傷つけたやけまぎれではない。父にうそをつかれたやけまぎれだ。でも、父は本當に瀕死の重傷を負つたのか」

と壯三は泣き出しさうに顔をしかめた。

「女の後なぞ追ひかけずに、父の看護でもしてやるがいゝや」

と淺輪は壯三を突きとばした。それほど力を入れたのでもないのに、壯三はあほむけにペタと地上に叩きついた。

「何をする。ごろつき」

と立ちなほつて壯三は淺輪に跳びかゝらうと身構へた。

しかし、淺輪は笑ひながら

「また痛い目を見るぐらゐのものだからよせ」

と煙草をとり出してすひつけた。壯三は口惜しさに身を顫はしたが何うすることも出來なかつた。そして、また父のことを思ひ出したやうに、しよんぼりと屋敷の方に歸つて行つた。

「春木さん」と淺輪はそれを見ると近づいて肩を叩いた。「どこかく、そこらで飯でも食ひませう」

「でも、たえ子がゐますから」

さう云つて春木は自動車に近づいたが、たえ子の姿は何時か車内から消え失せてゐた。春木は吃驚して化石したやうに突つ立つた。何時の間に何處へ行つてしまつたのだらう。誰にかつれて行かれたのだらうか。成程、今から考へると、たえ子がゐるのに壯三が默つて歸つて行く法はなかつた。たえ子がゐないから歸つて行つたのだ

春木は地だんだをふみたいやうな焦慮を感じた。

新刊紹介

▲實話水兵の母（野崎敬輔著）陸の一太郎やあい！と共に併稱される海の勇士を繞る水兵の母の實話で當時事件に直面した人の手記、談話等を纏めたものである、尋常科の教科書にまで出てゐる水兵とは、水兵の母さは如何なる人か本書を讀んで一層感激を深からしめる。景色のよいところには偉い人が現はれるさいふことは本當であるこの水兵及び母の育つたところは九洲の南端の一漁村であるが月には一層雄大な景勝他ださうである。先づ國語教科書巻九の第二十四水兵の母全文を載せ、當時この事件に最も關係深かつた高千穗艦々長小笠原長生氏の海戰日錄があり、以下著者の努力になつた水兵の母の實話であるる、少年達にとつて一太郎やあい！と共に讀ますべき好讀物として敢へて世の親達に薦む（價八十錢、東京市牛込區東五軒町十番地兒童教育社）

▲新家庭日記（昭和七年）店頭に大分昭和七年の日記帳が出て來た、年々あまり新機軸を示さないがこれは一寸變つた内容を持つてゐる。先づ日記面の下欄には朝、晝、夕の食事献立を季節に應じて揃へ尙料理の造り方を添へてゐる當り親切である、家庭にある夫人達にとつて夜の解放時間となり日記をつけ終つて明日の献立をこれによつて參考出來ることは喜しいことに違ひない、附錄には日支料理に就いて、お臺所經濟學、特殊食物の調理法等がある（價八十錢、東京市京橋區京橋一ノ六鈴木商店出版部）

けふの放送

大連 JQAK

十一月二十八日

▲午前七時　ラヂオ體操

▲午後六時三十分　ニュース

▲獨逸語講座「テキスト第二十七課」大連語學校講師萩榮

▲ピアノ獨奏「月光ソナタ」（ベイトーベン作）大連高等音樂學院保田峰子

▲講話「日本刀の五ケ傳と其の靈に就て」（大阪）加島動

▲清元「深山木及兼樹振」淨瑠璃清元研究會社中、三味線清元延益富、尺八岡田二郎

▲職業紹介事項

▲天氣豫報

▲ニュース

▲中國劇「三星歸位」連東俱樂部々員

東京 JOAK

十一月廿八日年後六時三十分

▲講演「國寶となつた白鷺城」大塚正時▲新内「苅萱桑門築紫轢」（高野山の段）淨瑠璃富士松佐賀太夫、同佐賀路太夫、三味線富士松加賀造、上調子同仲造▲ハーモニカ合奏及獨奏（一）合奏「セヴイリヤの理髮師」（ロッシニー作）「マドリッドの矢」（マチョッキ作）（二）獨奏「牧場の秋」（川口章吾作）「亞米利加の巡邏兵」（ミーチャム作）「グッドナイトワルツ」（川口章吾作）川口ハーモニカ合奏團、指揮併獨奏川口章吾、ギター伴奏鈴木靜一▲浪花節「伊達安藝」浪花亭綾太郎

恤兵寄附金

關東陸軍倉庫大連本庫扱ひ

▲五十圓大連行商人組合▲武圓沙河口居住者匿名▲二十圓同上▲一圓五十錢常盤小學校五年生徒一名▲十五圓屯驛居住者一同▲二十圓ミス、ダイレン女給代表後藤貞子▲三圓銀座美裝院峰尾美子

滿洲日報

發行人 鈴木昇　編輯人 橋本喜代治　印刷人 本村武雄
發行所 大連市東公園町卅一番地 株式會社滿洲日報社
定價 一ヶ月 金一圓二十錢　郵稅 金十五錢　一部 金五錢
廣告料 普通一行 金一圓三十錢　特別一行 金二圓六十錢　場所指定 二割以上加算

支那軍猛烈に攻擊し天津日本租界は危殆
わが軍は自衞上これに應戰し 砲聲殷々全市を壓す

【天津特電廿七日發至急報】香椎軍司令官は十五日支那の陳謝を容認したるも支那側が約束の全部を履行せざるに拘らず、我軍は租界の自由交通を許し兵力を撤退し義勇隊を解散したるところ支那軍大部隊は二十六日午後八時半突如先づわが軍の左翼に對し、次いで全正面に對し砲兵機關銃をもつて猛射を開始す、我軍はこれに應射せずその不法を責め射擊中止を警告せるに拘はらず、猛烈にわが陣地の攻擊を熄めず軍は今や忍ぶ能はず租界居留民保護のため自衞權を行使應戰し目下砲聲殷々全市を壓し租界の危機累卵の如し

支那軍續々天津集結

【天津二十七日發】過般二十支里外に撤退した支那軍は今曉盛んに天津に集結しつゝあり事態は愈々重大化し來つたが我兵力は駐市軍三個中隊義勇兵五百名に過ぎない

今朝來砲擊益々猛烈
敵彈我租界に飛來炸裂

【天津廿七日發至急報】日支衝突以來軍糧城の支那軍第十五旅を始めとして附近駐屯中の支那軍續々天津に集合し今朝來その一部は南開競馬場一帶に集合し天津は全く危險に瀕す

【天津特電二十七日發】二十七日午前七時支那軍は益々猛擊を加へ重砲迫擊砲を以て我租界に猛射を浴びせつゝあるが未明と共に一層猛烈となり彈丸は租界內に落下しわが六千の居留民は極度の不安に襲はれてゐる、天津租界開設以來最初の戒嚴令下に四百の皇軍並びに三百の義勇隊は暴虐なる支那軍の攻擊に對し必死の防戰に努め事態の變化によつては日本租界は一大危機に直面せんとしてゐる

自衞權の行使を聲明
けふ香椎我軍司令官より

【天津特電二十七日發】香椎軍司令官は日本租界及び邦人保護のため自衞權を行使しなほ膺懲する旨聲明す、支那軍は我方の手薄を知り一擧に租界を奪ふべく猛射を加へ砲彈租界に飛來炸裂し危險いはん方なし

我軍は市省建物を攻擊
停戰交涉など信用し得ず

【天津二十七日發】我駐屯軍司令部は東北第二軍司令部、市政府に不法を詰るや支那側は便衣隊射擊の流彈が日本租界に落下したものであるといひ午後十時半迄に射擊中止を誓約したが、〔零時半〕に至るも熄まず午前二時日本租界旭街の北及び日本兵營附近で盛んに炸裂してゐる、一方支那側は手を替へ總領事館に停戰を歎願せるも一方において南海競馬場に野砲重砲を据え砲擊を續けるなど卑怯且つ僞を構へ誑きに我軍は停戰に應ぜず省政府市政府目がけて砲火を集中し市省建物は少なからぬ砲彈命中を受けた午前零時半頃である、なほ我砲の著彈正確省市政府に命中支那側は大混亂である

正午に至るも尙砲擊

【天津二十七日發】支那軍の砲擊は只今(正午)に至るも續けられ小銃擊は恰も豆をいる如く砲擊は殷々として人心を動搖せしめ我軍又之に應戰し物凄い光景である、昨夜來租界內に落下した支那側の砲彈は海光寺兵營內を始めとし十數發の多きに達してゐるが、我軍司令部は戰線の變化と共に總領事館を既に義勇隊の本部となしてゐる

午後一時迄の戰況

【天津特電二十七日發至急報】午後一時戰況左の如し
支那軍は南開女學校及び支那競馬場河路よりの我西地區陣地及び海光寺司令部に向つて今尙盛んに小銃機關銃の猛射をつゞけて居る、わが軍歩兵銃で應戰、極力防戰に努めて居る

敵對行爲を中止して廿支里外へ撤退せよ
我軍司令官支那側へ通告

【天津特電廿七日發】日支軍衝突―五時東北軍第二軍長河北省政府主席王樹常に對し香椎軍司令官は廿七日午前―した左の如き通告を發―去る十一月十五日貴軍長は支那側の敵對行爲に對し誠意を以て陳謝したり、然るに拘はらずまたく二十六日夜俄然貴國軍隊及び保安隊が日本軍及び日本租界に對し射擊し爾後今廿七日に至るもこれを制止せざるは明かに日本軍に對し敵對行爲に出づるものと認められ全く誠意を缺くの甚しきものあり、よつて日本軍司令官は日支平和保持のため貴軍長に對し廿七日正午までに左の件を實行に着手し且つ回答することを要求す

一、即時敵對行爲の中止
二、支那軍隊の列國軍駐屯地より二十支里外への撤退の確立なる實行

事態極めて重大
余は重大決意をなす
金谷參謀總長談

【東京二十七日發】天津事變は極めて重大だ、兵營內の防禦なら支那兵の三萬五萬は何でもないが數千の在留民保護の責任上兵力の不足は爭ひ難い、依つて自分としてもこの際重大決意をなしてゐる、故に國民も事實を靜觀して我軍の正當なる行動を諒解して貰ひたい

天津方面事態を委曲上奏

【東京二十七日發】金谷參謀總長は本日午前八時半參內陛下に拜謁仰付られ天津方面の戰鬪につき委曲奏上九時退下した

三、武裝保安隊の南運河及び金鋼橋より墻子に通ずる運河の線以北への撤退
四、河北省內にある軍隊(武裝と便衣隊たるを問はず)の移動中止
五、排日及び侮日行爲の絕對的取締

停戰申込を斷然拒絕

【東京二十七日發】天津駐屯軍發―陸軍省着電、支那側は午後十時半に至り停戰を申込み來れるも支那側は銃砲を以て攻擊を探つた事實あり許す能はずとして我軍は即時之を拒絕し中原公司百貨店、三井支店屋上に機關銃を据ゑ猛射を浴せてゐる

各國軍司令官憤慨
列國共同警備を協議中

【天津特電二十七日發】我軍司令部は二十七日午前四時各國軍司令官を招致し昨夜來の支那軍不法射擊につき說明したが、その間にも支那軍は尙砲擊を止めず軍司令部を目がけて信號彈を發射するなど依然暴戾を繰返し各國軍司令官も口を揃へて憤慨してゐる、一方列國駐屯軍は警備につき各國幕僚は對策協議中なるも列國共同警備に當り支那軍憲の武裝を廿四時間內に解除を要求するか支那兵を一定距離外に撤退せしむべき模樣である

伊租界を公然砲擊
伊軍激怒し目下交戰中

【天津特電二十七日發至急報】白河畔にある日本駐屯地に今朝來支那公安局より猛射を浴びせた際同地附近イタリー警備軍に彈丸飛來し餘儀なくイタリー軍もこれに應戰したが、その後支那側は公然とイタリー軍に砲擊し出したのでイタリー側は大に激怒し目下交戰中

我軍の增兵を要求
桑島總領事が外務省に

【天津二十七日發】桑島總領事は外務省に對し支那側の暴戾その極に達す、租界擁護と居留民保護のため即時增兵を要すと打電した

成行を見て增兵
けふ臨時閣議で決定

【東京二十七日發】天津の形勢險惡化し陸軍では二十七日午前七時首腦部會議を開き取敢ず應急處置として久留米師團の步兵〇〇聯隊より〇個大隊を急派し引き續き姬路師團より混成一個旅團を派遣に決定南陸相はこの方針に基き午前九時半よりの緊急閣議に諮つたが急速增兵は之を取り止め當分形勢の推移を靜觀する事に決定した

支那軍の暴狀に鑑み所要の對策を講ずる
けふ關東軍司令部發表

關東軍司令部發表＝暴虐なる支那軍隊は昨二十六日午後八時過ぎ天津駐屯日本軍を包圍攻擊し該地日本軍は自衞的見地より斷然起つてこれと交戰せり、關東軍は天津方面の危急と支那軍憲暴狀に鑑み本二十七日以後所要の對策及び部署をなすに決せり【奉天電話】

各軍に行動開始命令

關東軍司令部では張學良軍に對し適切なる手段を執ることに決し本庄軍司令官は管下各軍に對し行動開始を命令した【奉天電話】

我奉天駐屯第〇聯隊
今朝〇〇方面へ出動す

北寧線方面緊張に伴ひ奉天駐屯のわが第〇〇聯隊は二十七日朝七時〇〇方面に出動した＝號外再錄＝(奉天電話)

鈴木旅團〇〇方面に出動

鈴木混成旅團司令部は廿七日午前八時廿分奉天出發〇〇方面に出動した＝號外再錄＝(奉天電話)

遼陽〇大隊けさ某方面へ

遼陽で待機中であつた橫澤少佐の率ゐる山形步兵第〇〇聯隊第〇大隊は二十七日午前六時發臨時列車で某方面に向け出發した【遼陽電話】

兩師團に出動內命

【東京二十七日發】天津及び錦州の情勢險惡となり陸軍首腦部會議の結果先づ小倉師團から急派し引續き情勢によつては姬路師團から混成旅團を增派することになり午前十一時三十分それぞれ兩師團に準備內命を發した

急迫せば直ぐ增兵

【東京二十七日發】天津及び某方面の形勢に急變あらば軍部は第〇師團及び第〇〇師團部隊の外更に內地第〇師團からもその一部を派遣する事となつた

時局後援會も增兵要求

錦州方面の戰機切迫に鑑み時局後援會では廿七日午前十時若槻首相、南陸相、金谷參謀總長、小磯軍務局長あて左の如く打電出兵を要請した
錦州方面の切迫せる狀況はわが兵力不足を感じ在滿同胞の不安この上なし速に增兵あらん事を切望す

攻擊全く計畫的
諸種の情報で歷然

【天津二十七日發】今回の不意の攻擊に關し諸情報を綜合するに全く計畫的である事が判明す
一、砲擊開始に先立ち消燈したこと
一、廿七日錦州軍と相呼應して我租界の攻擊計畫あり、學銘が二十六日夕方急遽北平より歸り日本義勇隊の解除式を行つて警備手薄に乘じ一日繰り上げて決行したこと
一、我租界線上空に照明彈を放つて一齊射擊をなした事

わが兩艦陸戰隊
本日中に天津に到着

【天津特電二十七日發至急報】大沽に碇泊中の驅逐艦ふよう、かるかやの兩艦の陸戰隊百名は正午ライターで天津へ急行したが本日中に到着の見込み

塘沽方面も危險迫る

【天津二十七日發至急報】塘沽方面の形勢危機に瀕したため同地在留邦人全部は陸軍運輸部に避難した、なほ山海關方面より引揚げて來た居留邦人並に本日大連より入港した北嶺丸、濟通丸の船客も上陸後危險のため同じく陸軍運輸部に避難した

軍艦朝顏に商船掩護を要求

【天津二十七日發】我駐屯軍は塘沽碇泊中の軍艦朝顏に出入商船掩護を要求した

わが軍の悲壯な決心

【天津二十六日發】支那側は突如として我租界攻擊を開始したのは昨日北平に赴いてゐた張學銘が本日午後二時歸津し日本租界の警備が幾分緩和され義勇隊も午後三時解散したことを知りその虛に乘じ保安隊をして砲火を我に對し開かしめたものなることが判明した、學良、學銘等の奸策に極度に憤慨した我軍は今度こそ容赦せぬとの悲壯な決心を以て敵軍殲滅を期してゐる

在鄉軍人も非常召集

【天津二十七日發】二十七日午前六時支那軍の攻擊猛烈を加へ我軍應戰に努めてゐるが、第一線の警備手薄のため在鄉軍人を非常召集し防戰に努めてゐる

我軍三名重輕傷

【天津二十七日發】本日の天津に日支戰鬪最初の犧牲者は今朝支那側銃彈にあたつた電信第一聯隊工兵一等兵石松豐光氏で同氏は腰部に貫通銃創を受け直に病院に入り治療中だが生命は取り止める模樣このほか步兵二名輕傷を負ふた

兩軍の損害

【天津二十七日發】彼我の砲擊銃擊戰は暫時に亘り今朝までに我軍及居留民には死傷者少いが支那街は多大の損害と相當多數の死傷者を出してゐると

駐屯軍戰鬪力最大限五日間

【東京二十七日發】天津駐屯軍の戰鬪力は最大限五日間の小部隊なるを以て我陸軍當局では五日間內に應援隊を天津に送るべく焦慮してゐる

天津事件の處置訓令
桑島總領事へ

【東京二十七日發】天津における日支衝突事件に關し外務省では午前十時より亞細亞局長室で關係官參集
一、居留民保護の件
一、陸海軍當局と協議善後措置を講ずる事
に就き種々協議したが決定案は至急桑島總領事に訓令を發する筈

邦人婦女子の引揚指令

【天津二十七日發】桑島總領事は取敢ず邦人避難に關する諸計畫を命ずると共に各汽船會社支店長を招致して邦人婦女子の引揚げに關する指令を發した、一方桑島總領事は幣原外相に對し請訓した

小學校休校
開校三日間で

【天津二十七日發】支那側の挑戰的發砲により北部旭街、福島街兵營方面又もや砲火の下に曝されるに至つたので桑島總領事は該方面の居留民に對し小學校又は安全地域に避難すべしと今朝通達した、日本人小學校は開校後三日間で休業となつた

酒井步兵隊長病床で指揮

【天津二十七日發】二十六日午後八時二十分支那側發砲開始と共に重砲彈頻りに我租界に落下するので香椎軍司令官は直に此の暴戾を膺懲するに決し九時四十分全線一齊に砲擊を命じた、砲兵隊本部は物々しく赤十字救護班も勢揃ひし租界步兵隊長は盲腸炎で病床にありながら緊々の狀況を聽取して全線の指揮に當つてゐる、非常召集を受けた義勇隊も各部署に就き軍隊と行動を共にし警備の重任に活動中

理事會の決議案を支那原則的に承認
施代表、ブ議長に通達

【パリ二十六日發】本日午後の理事會秘密會議に先立ち支那代表施肇基氏はブリアン議長を訪問した席上施肇基氏は支那が理事會決議案の聯盟に服從するのではない旨を傳へ事實上之を受諾したが、同時に施肇基氏は錦州附近に中立地帶を設置し日本軍の前進を阻止する必要を力說し、且つ日本政府が決議草案中の條約を監視する權限を有し特に其報告は迅速に公表さるゝ必要あることに言及したを得ん事を求め、聯盟より派遣されるオブザーバーがより廣大なる

號外發行

本社は廿七日午前中支那軍の天津砲擊並に關東軍の行動に關し二回號外を發行した

人事

▲佐藤卓雄氏(滿鐵理事)二十七日朝鞍山へ

蛇角

張學良死物狂ひで、天津と錦州に戰線を張つた、一世一代の大芝居、但しファンは餘り期待せぬ。
◇
張學良決死の覺悟ありとも見えぬが、最後の足掻きたる事には間違ひない。
◇
天津支那兵愈々日本租界に强襲と出て來た、隱忍を重ねた日本軍もう膺懲出來す。
◇
天津支那兵血迷つてイタリー租界を射擊す、事件益々擴大。
◇
錦州地方を中立地帶と爲さば、滿洲は愈々中華民國の外。
◇
國際聯盟、滿洲問題を私有物と爲さんとして成らず、調査委員會に依つて共有物に爲さんとする野心無しとせず、注意！大注意！

寫眞說明
(上)支那街の省政府(×印)と金鋼橋
(中)射擊を受けたイタリー租界
(下)危機迫れる日本租界(高く聳ゆるは中原公司)

便衣姿で避難民に混り 張學良の牙城を探る

フイルムを爆彈と信ずる支那兵

決死の錦州潜入記

「錦州政府」これぞ東北三千萬民衆の樂土建設の一大障害物のみならず友邦日本の犠牲的行爲を無視する仇敵の牙城である、仍つて錦州政府の正體捜査のため記者は便衣を纏ひ二十五日朝死を決して錦州に向つた、同日夕刻避難民に混つて錦州驛に下車すれば既に物情騒然、驛構内は武裝將卒で充滿してゐる、今しも山海關より裝甲列車で增援隊が着いたところだ 彼等は戰場五訓をしるした白布の腕章を着け意氣昂然たるものがある構外に出でんとすれば果せるかな身體檢査は嚴重を極め宛然重大犯人扱ひで殆んど丸裸にせんばかり一人に一時間餘も費す有樣だ、これを不安裡に待つてゐる避難民達は嚴冬寒夜の中骨を刻む苦みをなめねばならぬ、ふと構外廣場を見れば弦月の蒼白き光の下に砲列は並び 天幕小屋の入口には銃劍つきの兵が立哨し今にも戰鬪は開始されんとするかの如き凄愴さだ記者は一枚でも寫れば幸ひだとポケットに秘めた小型寫眞機を取出しフイルムを挿入しやうとすると背後からつかくと一兵士が走り來つて記者の右腕を驚掴みにし『何をするか?』と怒鳴りつけた「寫眞を撮すのだ」といつても信用しない、無智な彼は寫眞機を知らないのだ、フイルムを爆彈と信じ何と説明しても駄目だ、事面倒なので寫眞機なり進上すると「通れく」と叫ぶ、やつと難關を出て市内へまぎれ込んだ、市内は小さな一膳飯屋以外は商店は宵の口から殆ど戸を閉め黄塵濛々全く死の都である、やつと薄汚い馬車を見付け東三省擾亂の根源地たる省政府所在地の交通大學へ向ふ、途中の電柱、壁、家屋の戸至るところ「打倒倭奴」「打倒日本」「救助馬占山」「東三省を克復せよ」等の宣傳ビラが貼り廻されてゐる、町は官衙といはず民家といはず到るところ兵隊ばかりだ、何れも何やら激越な言葉で怒鳴り合ひつゝうよくしてゐる、襟には「二十」と記してある、馬車夫に聞くと何國柱の第二十旅だといつてゐた、流石に學良麾下の兵隊だけに武裝は何れも凛々しい、而しその兵隊が老幼樣々なのは奇觀だ、でも馬車夫はこれらの兵隊に怖氣ついたと見え馬が疲れたから下りて呉れといつてどうしても前進しない、仕方がないので驛まで引返すと丁度軍用列車が黒煙を吐いて溝帮子方面へ出動せんとしてゐるところだ、物々しい驛の光景は愈々戰機の逼迫したことを物語つてゐる【廿六日錦州にて一記者】

懷德縣に匪賊集結し 軍團の組織を圖る

中間驛の不安去らず

二十六日懷德縣から寬城子に避難して來た支那人地主李某は懷德縣方面に於ける匪賊の動靜について語る

懷德方面は目下匪賊の巣窟で頭目小白龍は部下一千九百白狼は一千指揮は三百第一面は五百名(蒙古馬賊として最も有勢なもの)などそれぐ懷德縣に集中し張學良の内命により黒龍江に行動を開始せんと策動中の大頭目天下好と軍團組織の折衝中だがその組織後は扶余、泰來、安達方面より北上するものゝ如くである、なほ農安北方に根據する頭目泰平は二千の部下を率ゐ目下長嶺縣下で行動中なるが漸次長春方面に接近しつゝあるので滿鐵沿線中小驛では相當不安を免れまいと觀られてゐる因に懷德縣は匪賊の橫行で居住支那人は殆ど避難し隨つて彼等は無人の境を行くが如き恐ろしい勢力である、縣城も匪賊のため占領されてゐると【長春電話】

沙河附近に 匪賊出沒

警官隊出動

二十六日午後三時沙河驛南方一里牛白龍頭溝の支那民家に八名の匪賊侵入し、長銃四挺、拳銃二挺及び彈藥を提供せしめた上金八千圓を強要したがあり合せの金一千圓を強奪逃走した、又同日午後二時頃沙河驛西北二十五支里新臺子より避難して來た支那人の談によれば約二百名の匪賊現れ全村に掠奪を行ひつゝあるとのことで、遼陽警察署では白龍頭溝に現れた八名の匪賊は新臺子の大匪賊團の別働隊で、狀況偵察に來たのではないかと秦池警部以下十五名が午前九時沙河に出動した【遼陽電話】

形勢險惡なる新民

西村本社特派員撮影

【上圖】廿六日到着した○○中隊が新民市街に入るところ【下圖】我兵に捕はれた匪賊

旅順活氣

兩驅逐艦入港

第十六驅逐隊「アサガホ」は二十六日午後六時營口より旅順へ入港又第十三驅逐隊の「若竹」は二十七日午前十時塘沽より同じく入港目下燃料その他の補給を急ぎ活氣を呈してゐる

林檎の注文

在奉天關東軍司令部副官部から二十五日旅順農會に宛て旅順産林檎七萬個(約二千八百貫)の注文電に接したので直に荷作り發送の準備中であるが零下三十餘度の奥地各方面へ分送するので凍結せぬ樣充分の注意が必要であり又七萬個と云ふと貨車一臺あるので大多忙を來してゐる

不淨金の沒收と 敗訴の判決

關東長官を相手取り 二千四百圓請求訴訟

關東長官塚本淸治氏を相手取り不當利得二千四百圓を支拂へと訴へてゐた山口縣柳井町土手町小島正氏にかゝる民事訴訟事件はこのほど大連地方法院森本裁判長から原告敗訴の判決が下された 即ち原告の申立は原告父小島貞次郎は大正九年大連市内で弘濟善堂に勤務中訴外朱春山と協同で株式店泰和公司を經營してゐたが危險性ある業務を原告の母小島セキが擔び貞次郎所有の株券(華商信託、商品信託、滿銀)を買ひ受けて賣却、代金は原告に贈與し原告名義で住友、正金兩銀行に預金した、然るに父貞次郎は大正十二年背任事件で有罪の確定判決を下されその際大阪地方裁判所檢事西堀元道氏は前記の原告名義の定期預金を兩行に請求、これを沒收した、よつて原告は當時兩行責任者を相手取り不當支拂の出訴をしたが一審、控訴院、大審院においても原告の敗訴に歸した、しかし銀行は國家の請求によつて搦出したもので取も直さず國家が本件預金の準占有者なりと認め沒收金の請求を行ふといふにある これに對し森本裁判長は原告名義の預金が國庫に歸屬せるは大正十三年一月二十五日で當時高等法院檢察官の徴收命令によるものである、即ち犯罪に因り得た金員をその子たる原告の名義に假用したものと認定しこの間何等違法無效の原因に基くものにあらず一定の法律上の原因たる沒收の確定判決に基き刑事訴訟法の規定に據つたものである その理由で原告敗訴の判決を下したものである

櫻田門外血染の譽

本社講堂に全滿の名刀を集めた 廿八、九日の刀劍大會

大連刀劍同好會並に本社主催の全滿刀劍大會は愈々廿八、九の兩日本社滿日講堂において開催するが廿六日までの出品刀劍總數は二百四十口餘に達し、いづれも稀代の名刀である、特にそのうちでも擬東社の出品である伯耆守信高は維新の序幕、櫻田門外において井伊大老を討つた水戸浪士の一人金子孫四郎志士の愛刀であつて、當時十八士のうちでも金子の奮鬪は目覺ましいものがあつたと記されてゐるだけ血染の名刀としての刀歴を有し、その子孫金子綜藏氏から故金子堅齋翁の人格を崇慕し讓つたものである、又安田柾氏の來國行、靑江貞次を始め、末次氏の來國俊は德川三代將軍の佩刀であつた由緒あり、古備前眞恒二尺四寸五分は日本に二口よりない古刀として知られ戸田氏の村正の大小揃ひの逸品あり、來國行の如きは古刀としての國寶にも推賞される程の名刀であつて、本大會出品中の白眉のものであらうといはれてゐる、その他大阪刀劍會からの出品中、虎徹のうちでも特に優れたものあり、いづれも本大會を一層價値づけるに至つたが、鑑定の結果では意外の名刀が世に現はれるであらうと期待され、全滿刀劍大會の催しは多數名刀の出品で各方面の人氣をあつめてゐる、なほ大阪から來連した加島勳氏は廿八日午後七時四十分大連放送局から「日本刀五傳と其效能」の題で放送をすることになつた

滿日婦人團活動

講演を聽き時局協議

滿日婦人團では廿七日午後一時本社講堂に於て軍事講演會並に相談會を開催した、講演者春日豫備大尉は今回の日支事變について事こゝに到れる日支間の葛藤より說き地圖、戰利品、寫眞等を參照して詳細に說明し全員に深き感動を與へた、終つて新任幹事の紹介、献金あり來月四日に開催する義捐演藝會等に就て協議を遂げた【寫眞は講演する春日大尉】

一年に三、四回 病氣になる

呼吸器系が斷然多い 滿鐵社員の罹病調べ

滿鐵では社員の正確な罹患統計がないので昭和四年以來の統計を作成すべく調査中であつたが、漸く同年度分が完成した、右調査は共濟社員一萬九千七百三十三名についてなされたもので之に依つて見ると一疾患を一患者とすると百人に對する百六十二人餘で同一疾患の罹患回數をも加算すると一社員平均三回乃至四回病氣にかゝることゝなり日本内地の健康保險調査と大差ないが、その内容に至つては日本内地と全く異る狀況を呈してゐる、日本内地では消化器諸病が最も多いのに反して滿洲は傳染病を除いては比較的少くその代り呼吸器系諸病は滿洲が斷然多い、殊に肺結核は四、二九%を占め感冒、氣管支炎、流感、肺尖も二十一%で之等は在滿邦人が氣候風土に不慣れの結果生活樣式の缺陷を示すもので同時に一般に不潔であること及び支那人に多く接する結果は皮膚病一九、四六%眼病一三、六〇%(トラホーム三、四六)の多きに上つてゐることは注意すべきである又滿洲の特色として擧ぐべきは一般食物も影響あるが特に砂糖が安いために糖分を多量に攝取する結果齒牙の疾患が多いことで全社員の一割九分以上が侵されてゐる

慰問金募集の 演藝會紛糾

三業組合の中止說を一蹴し 置屋側は飽迄頑張る

大連檢番置屋有志で軍隊慰問金募集の演藝會開催を計畫し北村席を中心に着々具體化しつゝあつたところ、三業組合役員間で「かゝる主旨の催しは組合主催でなすべきである」との横槍が入り、紛糾を續けつゝあつたが、組合では二十六日役員會を開き「演藝會開催の可否」に關し協議した結果 國家の重大危機に直面し國民の緊張を必要とする際、お祭騷ぎの演藝會を開くことは主旨は正義でも一般社會から非難を招くおそれあり、よつて演藝會は一時中止し、その代り組合員こぞつて拠金して軍隊慰問金として贈らうといふに意見一致、この旨を置屋側に通知し諒解を求めたところ、置屋側は一度計畫し既に準備に執りかゝつたことであるから組合が主催出來れば、最初の計畫通り置屋有志で開催すると役員會の希望を一蹴し十二月五六兩日大劇で開催するに決定、北村席、吉田席、岩崎席等は廿七日大連署に出頭、藤井保安主任の諒解を求むるところあつたが、大連署の裁斷は注目されてゐる

月極讀者に カレンダー贈呈

美麗な本紙新年附錄

本紙新年附錄として昭和七年の實用カレンダーを月極讀者に限り贈呈致します。第一回は一、二、三月分を新年勅題『曉雞聲』に因んで特に意匠を凝らした臺紙に美麗なる風景寫眞を撮り入れ装飾と實用とを兼ね御家庭用として最もふさはしいものと信じます

滿洲日報社

滿鐵慰問使

チチハル直行

滿鐵總裁、社友會及社員會を代表する滿鐵慰問使一行は二十七日午前九時發列車で北行した 一行は四平街、黒龍江間直通列車開通につき旅程を變更しチチハルに直行二十八日夜同地着、二十九日チチハル發引返して三十日洮南、一日鄭家屯に赴き再び昂々溪に戻り三日朝ハルビン着、四日長春着、五日吉林、六日長春を發して同日奉天に赴き七日滯在、八日奉天發遼陽に立寄つて九日歸連

方面委員事業

十月は減る

大連方面委員で十月中取扱つた件數は總計八百七十五件で前月に比し四件の減少であるがその内容は社會調査二百五十八件、保護救濟四十七件、相談指導九十五件、醫療保護八十五件、周旋紹介六十四件、兒童保護二十四件、戸籍整理一件、金品給與六十八件

天氣豫報

二十八日 西の風(晴)一時曇

各地溫度

	廿七日午前十一時 最	廿六日 低
大連	零下〇、四	零下四、七
旅順	三、〇	同 三、八
營口	零下一、七	同 九、四
奉天	同 三、三	同 一一、八
長春	同 四、六	同 一六、五

けふの小洋相場(十時) 金百圓は二一七圓一〇錢

遼陽に還送兵

昂々溪附近の戰鬪で負傷した遼陽衛戍にかゝつた將卒百名は廿六日午後六時四十五分着臨時列車で遼陽衛戍病院に還送された【遼陽電話】

今夜忠靈塔で 在鄕軍人祈願

在鄕軍人時局同志會では二十七日午後八時より中央公園忠靈塔前に集合し、皇軍の武運長久を祈願の上、代表者は午後九時半發車で第二師團將卒慰問のためチチハルに向ふことゝなつた

收容中の高橋 辯護士保釋

淸水勳一味にかゝる金州土地事件に連坐し嶺前屯刑務支所に收容中の關東州辯護士會辯護士高橋源一氏は接見禁止の裡に川畑豫審判官の手で審理を續けられてゐたが二十七日豫審一段落となり約半歳振りで保釋を許された、なほ豫審決定は數日中である

連鎖街カフエーからも献金

連鎖街の中央大連カフエーバー組合では北滿方面に派遣されてゐる軍隊、警官慰問のため曩に組合總會を開き協議した結果出動軍隊慰問金として百五十圓、警察官に百五十圓とそれぐ慰問金献金することゝし廿六日組合代表森喜一郎氏外二名が小岡子署に出頭して手續方を依頼した

早苗校生献金

大連早苗高等小學校第一學年六組の生徒一同は暴虐無道な支那の態度を思ふ時實に血湧き腕鳴るの思ひがする出來る事なら私達も銃を採り劍を拔いて不正な支那を膺懲したいと二十七日涙ぐましい手紙に金六圓七十八錢を添へ市役所總務課に「これは私達が小使の無駄使をとめて出し合つたお金です、出征軍人の慰問金にして下さい」と願つて來た

暗流阿修羅館 (255)

生田蝶介
挿畫 藤井耕達

家治病む (一九)

家治は、それからひどく苦悶をつゞけた。身をもがいた。胸をかきむしるやうにした。顏の色が一層土色になつた。

「いかゞなされました、上様、上様」

忠友は自分の膝をすゝめて、その上に家治の顏をもたせかけるやうにした。

「うゝむ、くるしい」

「お紅殿、敬順を呼んで下され」

お紅は次の間に去つた。

「吐きさうだ」

手早く懷紙を家治の口の下にすけて、

「お吐き下さい、かまひません」

家治は、また襲ひ來る苦みのの中、嚙みしめた齒の隙から、たらたらと茶色の液體を吐いた。しかし、それは甚だ少かつた。血をまじへた怪しい液であつたのだつた。

家治の苦悶はまだつゞいた。波打つやうな苦みだつた。

忠友は、その家治の吐いた液によごれた紙をじつと見た。そしてそれを中にして、別な懷紙で大切に包んで、自分の袂ふかくしまつた。

家治は、いくらか、苦みが通りすぎたやうにぐつたりしたが、それと同時に顏の色も唇の色もどこか紫色に白ざめて來るやうだつたそして家治は、そのまゝうとうとさするやうだつた。

敬順は狼狽て、來た。そのあとからお紅と二人の坊主が來た。

「早く早く」

忠友は敬順を叱るやうに云つた敬順は恐縮するやうに首をすつこめて、長る長ろ家治に近づいた家治を二人の坊主は、忠友の膝からそつと仰向けに寢かせた。

敬順は家治の脈を摩りながら、「何かお吐きになりませんでしたか」

とお紅にきいた。

お紅は默つて、たゞ首を振つた

その夜、お城は異樣な靜けさに墮ちた。しかし、御寢室の次の間には、その夜當直の人達が詰めたが、いづれもきちんと坐つて、鄰かに御屏風のうちの氣配に耳をすまして、咳一つしない。灯は暗くは物かの大きい影で蔽はれたやうに思はれる。

何々の方、何々の方、五六人、若年寄田沼意知も、水野忠友と共に御寢室に詰めて、心配さうに御屏風の中を見つめてゐる。

御屏風の中からは、時々微かなうめき聲が洩れて來る。

勿論意次の屋敷にも使が立つた極度に暗い不安の中にあつた夜は明けた。

朝になつて、思つたより、家治は持ち直した。顏色もだんだん氣のせいか明るくなつて來た。

敬順は、丹念に診察して、

「よほどお樂になりました、御心配はございません」

と云つた。が、その言葉は、むしろ病人に聞かすための言葉であつた。

人々は、そのことを心得てゐたそのまゝ詰めてゐる人が多かつた

朝になつて意次は駈つけた。それと入代りに忠友は退出した忠友は屋敷にもどると、すぐに醫師の日向東庵を招んだ。

日向東庵は、竹代丸の事件以來非常に不快におもつてゐた、そして田沼と若林敬順との間に何かあると睨んでゐた。

東庵は、何事であらうと、忠友の屋敷に駕籠を急がした。

キネマと演藝

上山草人が漫談行脚

歸米せぬ意向

上山草人は目下松竹加茂の衣笠貞之助歸朝第二回作品飯塚敏子主演の「唐人お吉」でハリスを演じてゐるが同映畫が今月末には完成するので十二月山陰の松江市を振り出しに從來草人の行かなかつた全國各地方に漫談行脚に出掛けることになつた、これには女優四五人を同伴して松竹の映畫主題歌を歌ひながら廻る筈で勿論撮影の暇な時を見て決行する筈である、上山氏は語る

アメリカへかへつてもこの不景氣では見込もありますまい、向ふの會社から呼び出しが來ないかぎり當分日本に腰を据へますそれに何しろお酒が吞めますからこれだけでも一寸考へますから……

日活慰問週間

祖國のため零下數十度の酷寒と砲煙の中に奮鬪してゐる我滿洲軍慰問のため日活では來る廿七日より十二月三日に至る一週間の興行に於て全直營館收入の一部を割きこれによつて慰問袋を贈ることに決定した

雪の渡り鳥

◇阪妻更生後最初のクリーンヒットとして評判のいゝ第三回作品である、原作は長谷川伸作の股旅物で下田港の男達、鯉名の銀平が戀に破れて泣いて男を立てるといふ物語を映畫化したものであるから阪妻得意の三尺物映畫として期待される。

◇監督宮田十三一のメガホンは平調に筋を追つて目立つて特異な手法もなく、坦々として事件を進めつゝ、義理と人情をからまして股旅ものゝ味を出したところ、阪妻の板についた銀平と相俟つて大衆受けのしそうな作品となつてゐる。

◇相手女優には新興キネマから望月禮子が特別應援してお市に扮してゐる、悲戀の相手役としては物足らないが、已むを得まい、その他堀川浪之助の帆立の丑松、岡田嘉九也の卯之吉等それぞれ活躍して氣のきいた八巻に纏つた時代劇で阪妻久振りの三尺物に人氣を集めやうとした作品である【大日活上映】

噫倉本少佐

河合映畫田中重男監督作品、河合徳三郎氏親友だつた長谷川大尉の總指揮により故倉本少佐を映畫化した國策物で、僅かであるが生前の倉本少佐が探錄されてゐるのが注目される、キャストは東大寺一郎の倉本大尉と柳瀨久雄の金子二等卒【寶館上映】

木下双葉大衆入社

東亞映畫の頃からエロ女優として其の妖艷な魅力を謳はれてゐた木下双葉及び東活の娘役として活躍してゐる五十鈴桂子の兩人は今度東活を退社して新興の大衆文藝映畫に入社した

噂話

松竹映畫に絡み長氏の策謀說に對して大日活はテンデ問題にせず一笑に附してゐるが▲噂はさても廣く擴がつてゐるらしく噂の内容は長興行合資會社の上谷氏が五千圓運動費を投げ出したといふのである▲そこで氣の早い連中は松竹が手に入れば大日活で東活がいらなくなるだらうと早合點して▲東活契約の運動が開始され出したので飛んだナンセンスに大日活側は苦笑してゐる▲そんな事は知つてか知らずか昨日のばいかる丸で南氏が歸連したが、どういふ譯か沈默を守つてゐる▲帝國館は次週のプロを變更して「かんかん虫は唄ふ」と海江田讓二の「高田馬場」を上映する

本社特選 新棋戰 (其四)

香落 三段 △塚田正夫 (十八歲)
初段 ▲久松英之輔 (廿一歲)

(圖は九六同香迄の局面)

▲久松氏「持駒」歩
△塚田氏「持駒」歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
飛	桂		金	金	王	角	桂	香	一
									二
		歩	歩	歩		歩		歩	三
				銀	歩				四
		歩	歩						五
香		歩	步	歩				歩	六
	歩	銀		歩	銀	歩	歩		七
	歩	角			金	歩	玉		八
	桂		飛		金			桂	九

△九四歩 ▲八三飛
△九五歩 ▲九七歩
△四八金寄 ▲七七角
△六五歩 ▲七七角
△同 桂 ▲八六歩
△八五角 ▲九八歩成

【土居八段講評】△塚田君の九四歩打は敵飛車の働きを牽制しやうとの輕策である。但し九七歩と打つて香車を取る手あれど、君の九七歩打は些か軍手の嫌ひあるも敵の急戰を誘導の意味にて此場合至當の對策△塚田君の八五角打は早計。一旦八六歩、同飛の時八五角打、八九飛成、六四歩と突出し早く攻勢を採る處である。▲久松君の九七歩打は些か…敵に成歩を作られ且つ飛車を活躍させる、憂へあつて良くない

【萩原六段解說】上手九四歩は敵の九二飛廻を消し、模樣によつて九三歩と成り同桂九四歩の味を覗つてゐるのである。此處で九七歩と打つて香得すれば下手同香、同桂、九六歩、八五桂、九七歩成、五五歩、同銀(同角なら五六香)六五歩と指しても五七銀の守りが活用する順になつて相當指せるのである。下手八三飛は八四飛と指すと上手より六五歩と取られ七七角成、同桂で次に八五銀と出られる順があるから八三飛と指したのである。上手四八金寄は玉の守備を强固にする意味と五八飛廻等飛車の活用を廣くするためである。が、一旦五五歩と突き捨て同角(同銀なら六五歩)四八金寄と指す方が、五筋に後に至り五九歩等白玉の守りに歩を活用出來るから順である。上手六五歩は悠悠々としてゐては敵に九八歩と成られ駒損を招き悲境に陷るから此の際已むを得ないのである。下手九八歩成は敵九六角なら八七歩と成つて同銀にても同角にても九七と指す爲めに九八歩と成つたのである。

御挨拶

豫て映畫「嗚呼南嶺」作製の爲め來滿中の南光明、武村新一行はロケーションも無事終了したので廿五日歸國致しました 在滿中種々御援助下さいました方々に對し厚く御禮申上ます 本映畫は一月早々内地と同時に封切する事になつて居りますから上映の節は何分の御後援の程願上ます 尚本映畫に類似の作品がある樣ですが滿洲にロケーションに來た東活の映畫とは全々無關係であります

公主嶺在鄕軍人分會
東活映畫株式會社